

平成31年度

北海道開発局事業概要
(事業別)

平成31年3月

国土交通省北海道開発局

< 目 次 >

1. 治水関係事業	・ ・ ・ P 1
2. 道路事業	・ ・ ・ P 1 6
3. 港湾整備事業	・ ・ ・ P 3 5
4. 空港整備事業	・ ・ ・ P 4 0
5. 農業農村整備事業	・ ・ ・ P 4 4
6. 水産基盤整備事業	・ ・ ・ P 5 0
7. 官庁営繕事業	・ ・ ・ P 5 2
(参考) アイヌ文化の振興	・ ・ ・ P 5 3
(参考) 北海道開発計画調査	・ ・ ・ P 5 4
(参考) 平成 3 1 年度 道路の主な開通予定	・ ・ ・ P 5 5

1. 治水関係事業

強靱な国土づくりと安全・安心な社会基盤の形成

【恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成、激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成】

「観光先進国」実現をリードする世界水準の観光地の形成

1 恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成

(1) 河川環境の保全・再生の推進

北海道の恵まれた自然環境の保全・再生を図るため、地域住民、NPO、学識経験者、関係機関等が連携・協働し、各種施策を推進します。

近年、流域の発展に伴い湿原面積が著しく減少している釧路湿原において、久著呂川における湿原中心部への土砂流入の抑制、幌呂地区の湿原再生及びヌマオロ地区の旧川復元を引き続き推進します。

このほか、天塩川下流地区において汽水環境の再生、天塩川中上流地区において魚類等生息環境の改善、十勝川の札内川地区において礫河原の再生及び石狩川下流(幌向地区)において湿原等の再生を引き続き推進します。



釧路湿原自然再生(幌呂地区湿原再生)

(2) まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間の創出

「丘のまちびえい」で知られる美瑛川地区等において、まちづくりと連携した水辺整備を行うことで、水辺とまちの活性化に向けたかわまちづくりを推進するとともに、石狩川及び十勝川の河川空間において良好な水辺空間を創出し、地域住民や観光客の利便性向上による観光振興を図るかわまちづくりに着手します。



川へ行こう！ 川を楽しもう！



かわたび
ぽっかいどう

KAWATABI HOKKAIDO

(3) 「かわたび北海道」プロジェクトの推進

川の自然環境や景観、水辺の活動、サイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携して、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用を促進し、北海道らしい地域づくり・観光振興に貢献する「かわたび北海道」プロジェクトを推進します。



(4) 河川協力団体について

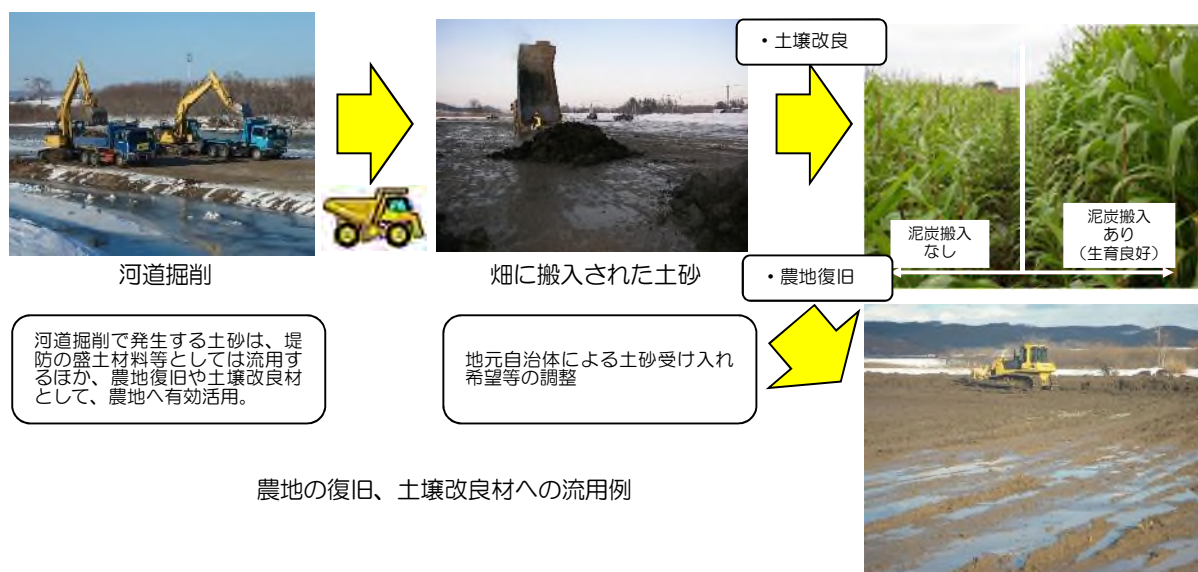
河川の維持、河川環境の保全等、河川管理に資する活動を自発的に行っているNPOや町内会などの民間団体を河川協力団体として指定し、河川管理者と連携して活動する団体として位置づけ、自発的な活動を支援しています。

(5) 海岸協力団体について

海岸の維持、海岸環境の保全等、海岸管理に資する活動を自発的に行っているNPOや町内会などの民間団体を海岸協力団体として指定し、海岸管理者と連携して活動する団体として位置づけ、自発的な活動を支援しています。

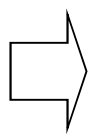
(6) 公共事業の実施に伴う発生土砂等の有効活用等

河川事業で発生する土砂については、堤防等の河川整備に流用するほか、平成28年8月洪水により被災した農地の復旧や農地の土壌改良材として有効活用し、北海道の基盤産業の一つである農業の生産性向上を図ります。

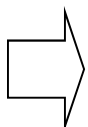


河川内の樹木については、民間企業等が木質バイオマスエネルギー等で幅広く利活用できるよう、河川法第25条を適用した採取（伐採）の取組等により、樹木管理費用の縮減と循環資源の利用システムの構築・活用を推進します。

ダム貯水池で集積した流木については、一般の方への無料配布や、チップ化による園路整備等、資源の有効利用に取り組みます。

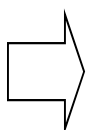


河川内の樹木は、民間での木質バイオマスエネルギー等に利活用



ダム貯水池で集積した流木は、無料配布を実施、また、チップ化し園路整備やバイオマス燃料として利活用

また、堤防除草により毎年発生する刈草は、地域で家畜の敷藁に使用するなどの利活用を進めるとともに、新たにバイオガス資源として提供し、除草費用の縮減と循環型の地域づくりを推進します。



堤防の刈草は、家畜の敷藁やバイオガス資源として利活用

2 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

(1) 「北海道緊急治水対策プロジェクト」に基づくハード・ソフト対策の推進

平成28年8月の一連台風災害を踏まえ、「北海道緊急治水対策プロジェクト」として、大きな被害を受けた河川を中心に、洪水時の水位を下げるための河道掘削などのハード対策を緊急的、集中的に進めるとともに、住民の避難を促すためのタイムラインの作成・改良や、洪水情報のプッシュ型配信等のソフト対策を推進します。

(2) 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に基づくハード・ソフト対策の推進

平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震等最近の災害に鑑み実施された総点検結果を踏まえ、甚大な人命被害等が生じるおそれのある河川の堤防の強化対策、樹木伐採や掘削等の対策や、土砂・洪水氾濫により被災する危険性の高い箇所を保全する砂防堰堤の整備等の対策を実施するとともに、迅速な避難につながる河川情報の提供などのソフト対策を推進します。

(3) 千歳川流域の治水対策の推進

千歳川の治水対策は、発展の著しい道央圏の防災対策として緊急を要する重要な課題であり、平成17年4月に策定された千歳川河川整備計画に基づき、石狩川の高い水位の影響を長時間受けることに対応した堤防の整備や河道掘削及び遊水地群の整備等を推進します。



千歳川遊水地群の整備

(4) 石狩川流域の治水対策の推進

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国固有数の食料供給地です。特に昭和56年8月洪水時には、甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水から石狩川下流域を防御するため、北村遊水地の整備を推進します。



北村遊水地の整備

(5) 空知川南富良野幾寅地区地域連携防災事業の推進

平成28年8月洪水により激甚な災害が発生した南富良野幾寅地区において、再度災害防止対策の整備や地域防災力の向上を目的に地域と連携した地域連携防災事業を推進します。



石狩川水系空知川の堤防決壊状況（平成28年8月）

(6) 大都市地域で壊滅的な被害を防止するための治水対策の推進

洪水時に堤防が決壊すると壊滅的な被害が予想される札幌都市圏を貫流する豊平川において、流下能力不足となっている下流部の河道掘削等を推進します。



豊平川の河川改修

(7) 網走川大空地区河川防災ステーション整備の推進

網走川流域の防災事業において、災害が発生した場合の緊急復旧などを迅速に行うため、緊急用資材の備蓄や市町村が行う水防活動を支援する拠点となる河川防災ステーションの整備を推進します。平常時には、環境教育、防災教育等の文化活動の拠点として活用するとともに地域コミュニティの拠点として活用される施設です。



河川防災ステーション（完成イメージ）

(8) 多目的ダム建設の推進

洪水から人命、財産を守り、水道用水等の新規利水の需要に対応し、安定した川の流れの確保による農業用水の安定供給や河川環境を保全する多目的ダムの建設について、沙流川総合開発事業、幾春別川総合開発事業の早期完成に向けて推進します。



平取ダム（完成イメージ）

(9) ダム再生の推進

近年頻発する水害に対し、治水安全度の早期向上を図る事を目的に、雨竜第1・第2ダムにおいて洪水調節容量を新たに確保するため、雨竜川ダム再生事業の実施計画調査を推進します。



雨竜第2ダム（かさ上げイメージ）

(10) 火山噴火等に備えた土砂災害対策の推進

噴火による大規模な災害が発生するおそれのある樽前山・十勝岳において、火山砂防事業を重点的に推進します。

上流域の土地荒廃が著しく、流出する土砂が下流域に被害を及ぼすおそれのある石狩川上流域・豊平川・札内川・厚真川において砂防事業を推進します。



樽前山覚生川砂防堰堤群の整備

(1 1) 海岸侵食対策の推進

北海道の物流の要である苫小牧港、重要交通網である国道36号、JR室蘭本線が隣接するとともに、それらに面して住宅が密集している胆振海岸において、海岸侵食対策として人工リーフ整備を推進します。

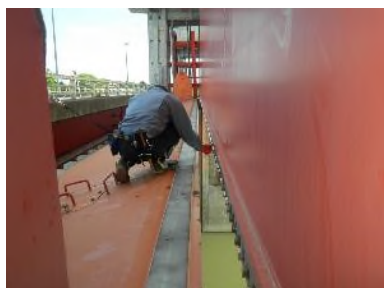


胆振海岸（白老工区）人工リーフ

(1 2) 河川管理施設の戦略的な維持管理・更新の推進

河川の維持管理では、一級河川13水系の大臣管理区間における、ダム、堤防、水門・樋門、排水ポンプ等の河川管理施設を良好な状態に保つように維持し、確実な操作を実施するとともに、所要の機能を確保するため、点検・評価結果に基づく補修・更新等を実施します。

また、施設の老朽化の進行や北海道特有の凍害劣化に対応し、トータルコストの縮減や平準化を図るため、長寿命化計画等に基づく予防保全を実施するなど、戦略的な維持管理・更新を推進します。



施設の点検（水門ゲート設備）



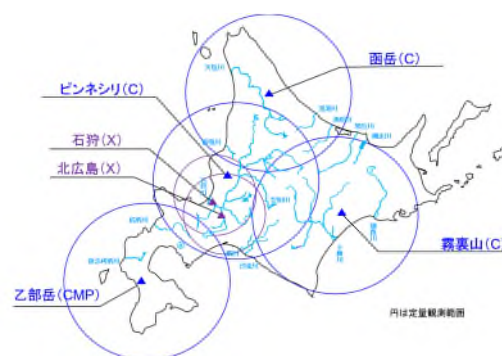
施設の点検（放流設備）



施設の補修に合わせた
自動開閉式ゲートの導入事例

(1 3) 大規模災害に備えた危機管理体制の強化

近年増加する集中豪雨や局所的な大雨による水害や土砂災害等に対して、施設管理や防災活動等に役立てるために、従来のCバンドレーダ雨量計を高性能化（CバンドMPレーダ雨量計）し、XバンドMPレーダ雨量計と組み合わせたXRAINにより危機管理に努めるとともに、防災情報収集のための機器整備を行います。



レーダ雨量計配置図

平成31年度（継続）

ちとせ 千歳川遊水地群整備事業

（直轄）

1. 概 要

千歳川の中下流部には広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を長い区間にわたり長時間受けるなど水害が起きやすい特性を有しており、ほぼ2年に1回という頻度で水害に見舞われています。

特に、昭和56年8月上旬洪水は未曾有の大洪水となり、被害家屋2,683戸、浸水面積192km²の被害をもたらしました。

本事業は、「堤防強化（遊水地併用）案」を盛り込んだ千歳川河川整備計画が、平成17年4月に策定されたのを受けて、度重なる水害の解消を図るため、遊水地群を千歳川本支川に分散して整備し、災害の防止を図るものです。

2. 計画内容

箇所名：江別市（江別太）、南幌町（晩翠）、北広島市（東の里）、恵庭市（北島）、千歳市（根志越）

面積：A=1,150ha

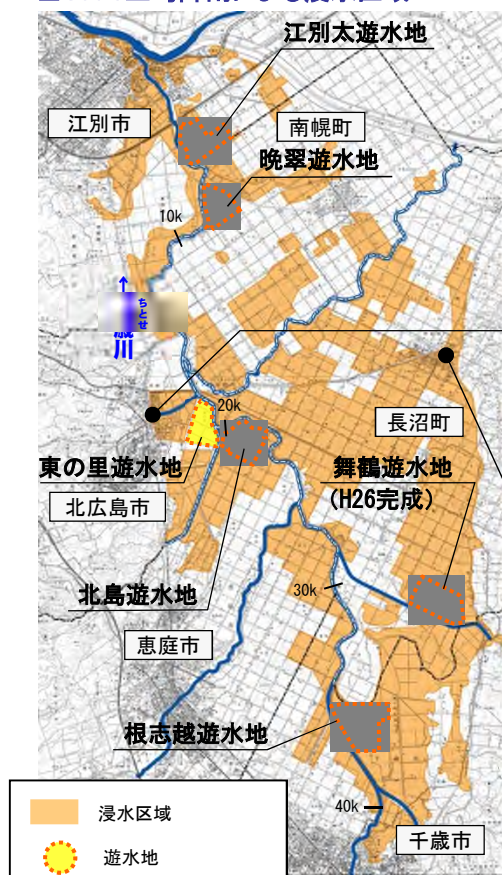
全体事業費：C=1,150億円

事業予定期間：平成20年度～平成31年度

H31実施内容：築堤、越流堤、管理施設等



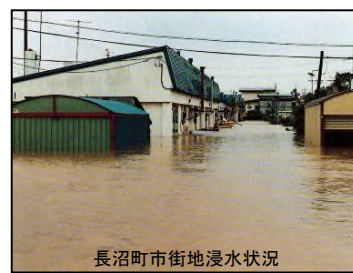
■S56.8月上旬降雨による浸水区域



昭和56年8月洪水の浸水状況



北広島市街地浸水状況



長沼町市街地浸水状況

■遊水地のイメージ



平成31年度（継続）

きたむら
北村遊水地整備事業

(直轄)

1. 概 要

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国有数の食料供給地となっています。特に昭和56年8月上旬洪水時には、11箇所の堤防が決壊するなど、氾濫面積614km²、被害家屋約22,500戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水から石狩川下流域を防御するため、北村遊水地の整備を推進します。

2. 計画内容

箇 所 名：岩見沢市、月形町、新篠津村

面積：A=950ha

全体事業費：C=700億円

事業予定期間：平成24年度～平成38年度

H31 実施内容：築堤、用地及び補償費等



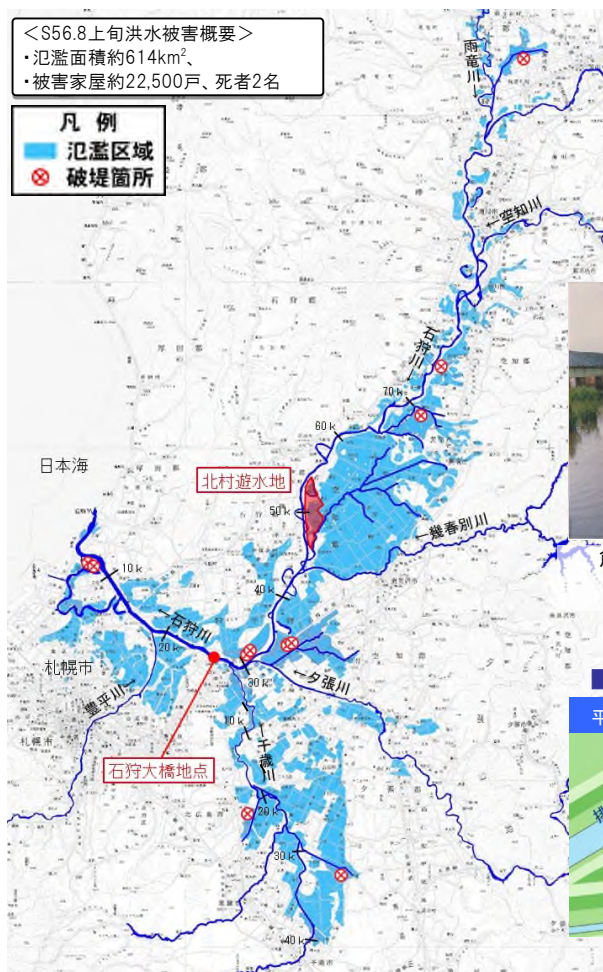
■ S56.8 上旬降雨による浸水区域

＜S56.8上旬洪水被害概要＞

- ・氾濫面積約614km²、
- ・被害家屋約22,500戸、死者2名

凡 例

 氾濫区域
 破堤箇所



昭和 56 年 8 月洪水の浸水状況



創成川 市街地の浸水状況
(札幌市)



石狩川右岸 下新篠津付近の氾濫状況
(江別市)

■遊水地のイメージ



平常時は農地として利用



洪水時は遊水地として利用

平成31年度（継続）

河川災害復旧等関連緊急事業（十勝川）

（直轄）

1. 概 要

平成28年8月台風10号により、十勝川では計画高水位を超える洪水となり、上流区間の支川芽室川（北海道管理区間）においても越水により堤防が決壊し、氾濫被害が発生しました。支川芽室川の被害に対しては、北海道にて再度災害防止を目的に改良復旧することとしており、芽室川の流下能力増による十勝川本川への流入量増により、十勝川においても対応が必要となります。

これを踏まえ、支川の流下能力増を流下させるための十勝川本川の河道掘削を、河川災害復旧等関連緊急事業として緊急的に実施し、再度災害防止を図るものです。

2. 計画内容

箇所名：豊頃町、池田町、幕別町、音更町、帯広市、芽室町

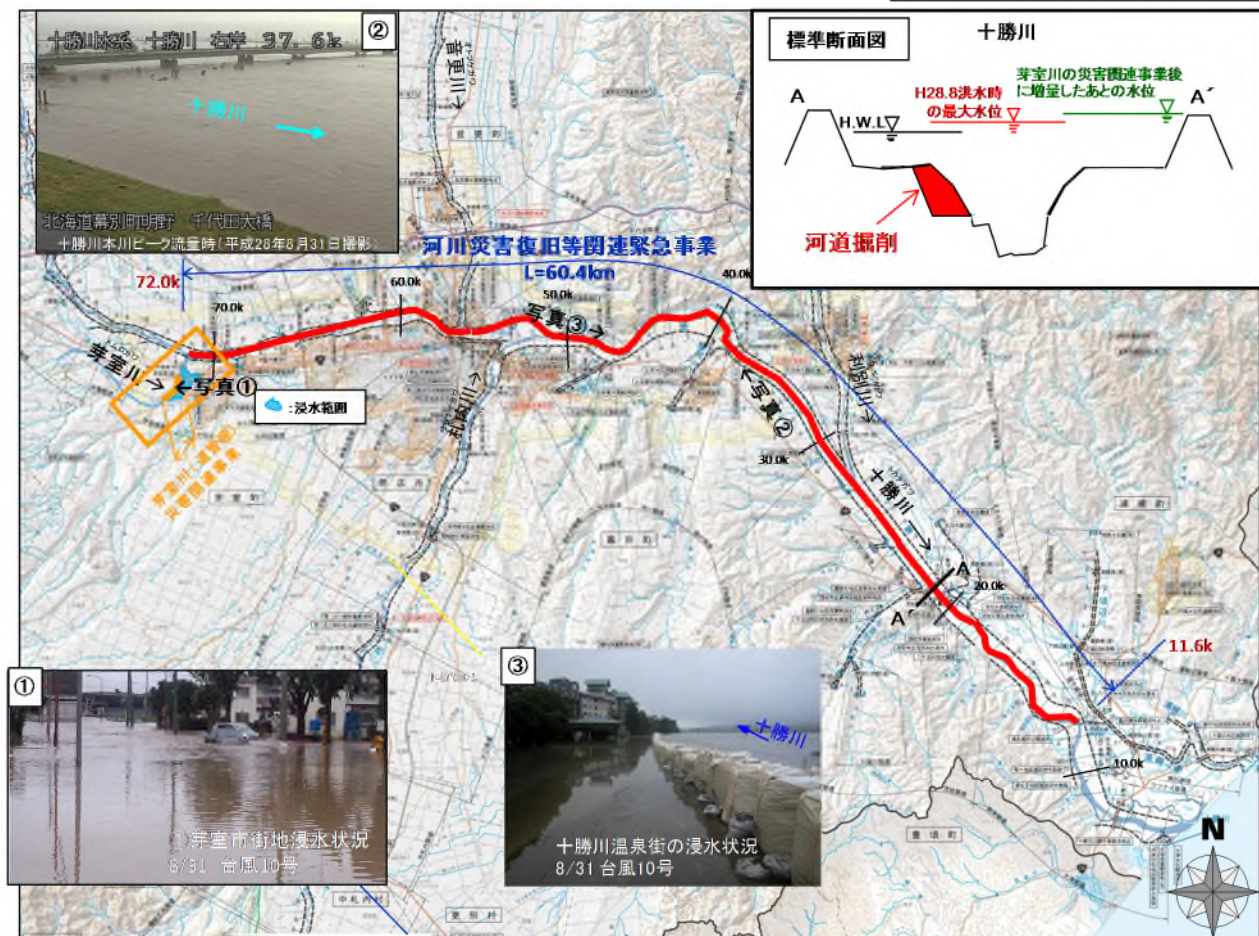
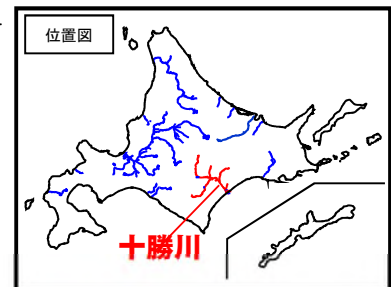
掘削延長：L=60.4km

掘削土量：V=2,640,000m³

全体事業費：C=104億円

事業予定期間：平成28年度～平成31年度

H31実施内容：河道掘削



平成31年度（継続）

河川災害復旧等関連緊急事業（常呂川）

（直轄）

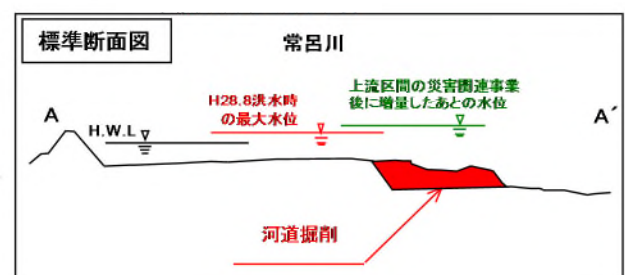
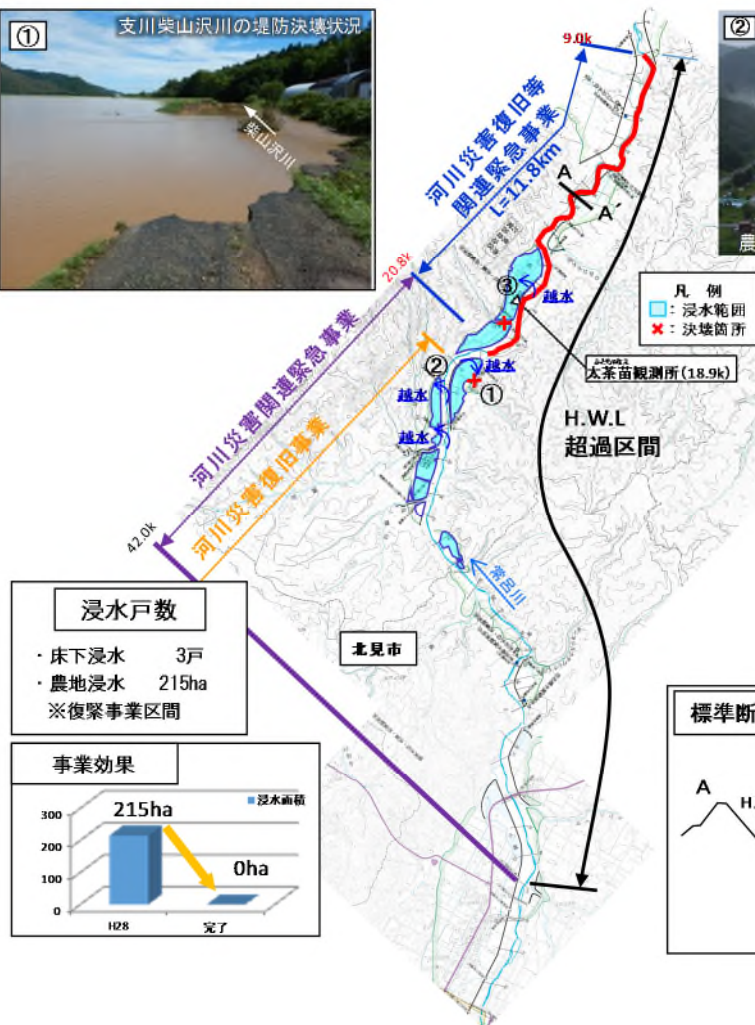
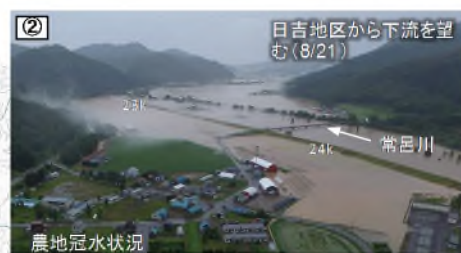
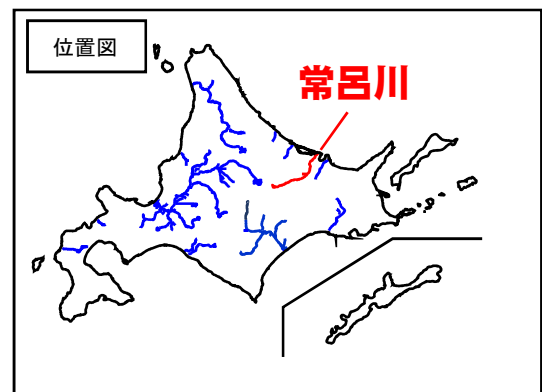
1. 概 要

常呂川では、平成28年8月の一連の台風による断続的な大雨の影響で、中・下流部では堤防越水に伴う大規模な浸水被害が生じました。この被害に対して被災施設の復旧とあわせ、再度災害防止対策のため、河川災害関連緊急事業で堤防越水区間の水位低下を目的に河道掘削を行います。

この河川災害関連緊急事業による再度災害防止のための河道掘削により、下流への負担増となることから、河川災害復旧等関連緊急事業により緊急に河道掘削を行い、再度災害防止を図るものです。

2. 計画内容

箇所名：北見市
掘削延長：L=11.8km
掘削土量：V=644,000m³
全体事業費：C=23億円
事業予定期間：平成28年度～平成31年度
H31実施内容：河道掘削



平成31年度（継続）

沙流川総合開発事業（平取ダム）

（直轄）

1. 概 要

沙流川流域は水田・畑作を主体とする農業が盛んであり、特に平取町におけるトマトの収穫量は全道一を誇り、重要な基幹産業となっています。近年においても当流域で頻発する洪水災害から地域社会を守るため、平取ダムの建設を推進します。

昭和57年度に建設事業に着手した沙流川総合開発事業（二風谷ダム（平成9年度完成）、平取ダム）は、平成33年度の完成に向けて、事業を継続します。

○平成31年度実施内容 本体工事、付替道路工事等

2. 計画内容

○目的

- ・洪水調節（沙流川、額平川の洪水防御）
- ・流水の正常な機能の維持
- ・水道用水の供給（平取町、日高町：0.030 m³/s）
- ・発電（二風谷ダムのみ）（ほくでんエコエナジー(株)：最大 3,000kW）

○ダム諸元

- ・型式：重力式コンクリートダム
- ・堤高：56.5m
- ・堤頂長：350m
- ・堤体積：177,000m³
- ・総貯水容量：45,800,000m³

位置図



完成予想図



本体工事状況（平成30年10月撮影）

平成31年度（新規）

雨竜川ダム再生事業

（直轄）

1. 概要

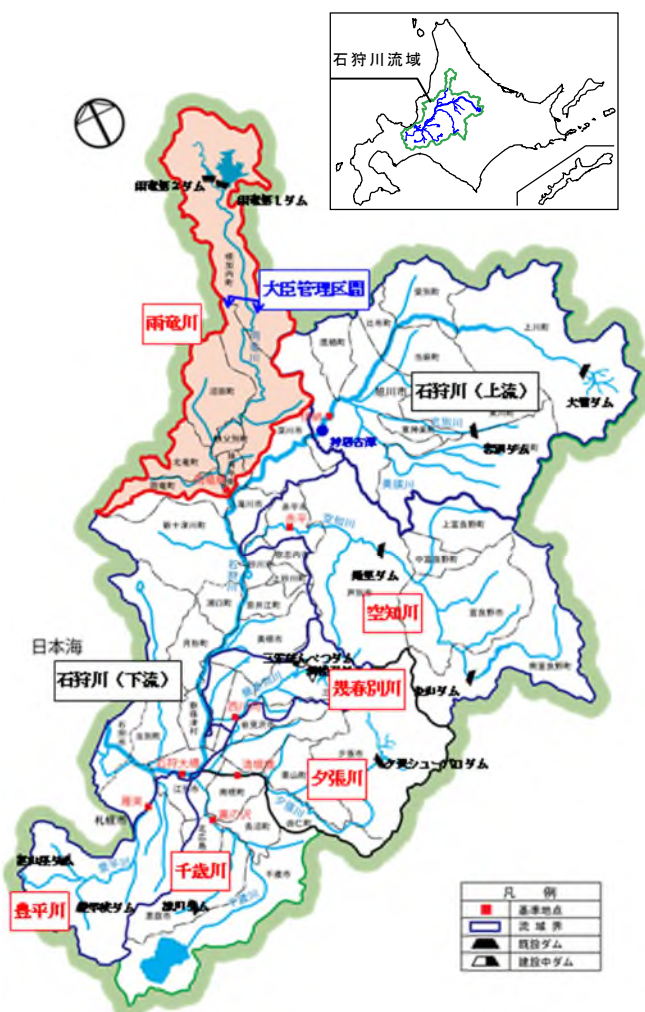
雨竜川流域は深川市、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、幌加内町の1市6町からなり、唯一の基幹交通網である国道275号が南北に縦断するとともに、そばや水田などの農業が地域の基幹産業となっています。近年においても当流域で頻発する洪水災害から地域社会を守るため、既設ダムを運用しながら有効活用する「ダム再生」として、雨竜川ダム再生事業の実施計画調査を継続します。

○平成31年度実施内容 地質調査等

2. 計画内容

○目的

- ・既設：発電（北海道電力（株））
- ・再生：洪水調節（雨竜川、石狩川の洪水被害防御）



雨竜第1ダム



雨竜第2ダム



かさ上げイメージ図（雨竜第2ダム）

平成31年度（継続）

たるまえさん 樽前山火山砂防事業

（直轄）

1. 概 要

樽前山は、1667年から1987年までに大規模～中規模の噴火を繰り返し、1739年の大噴火では火砕流が山麓まで流下しました。昭和53年(1978)のごく小規模の噴火後も火口の高温状態が続いており、平成8年(1996)以降地震活動が増加、平成22年(2010)にも火山性地震が2回発生し火山性微動が起きるなど、いつ噴火してもおかしくないと言われ、気象庁の常時観測火山となっています。

樽前山麓には苫小牧市・白老町の市街地が位置し、道央自動車道・国道36号・JR室蘭本線などの重要交通網や新千歳空港・苫小牧港・苫小牧臨海工業地帯などの物流拠点が集中しており、噴火した場合、甚大な被害の発生が危惧されます。このため、火山泥流災害の被害軽減を目的として平成6年から直轄火山砂防事業により砂防設備の整備を進めています。

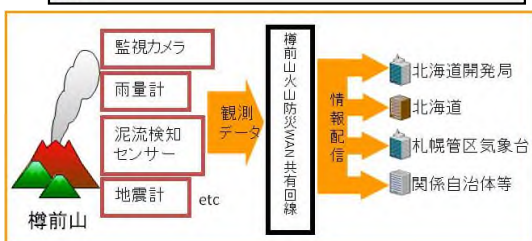
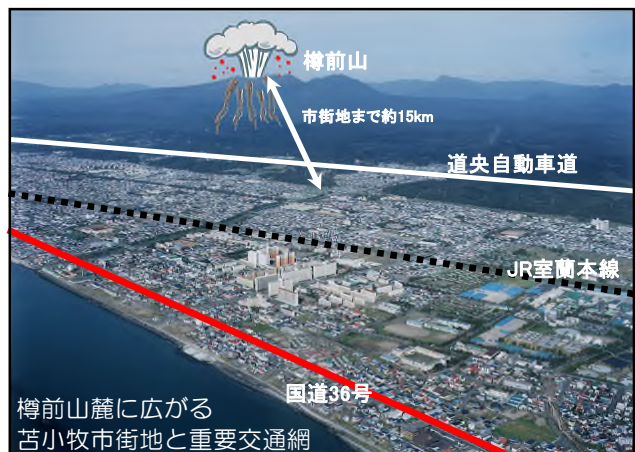
2. 計画内容

箇所名：苫小牧市、白老町

実施内容：砂防堰堤工、火山観測機器等

事業予定期間：平成6年度～

H31年度実施内容：覚生川砂防堰堤群等



樽前山火山情報共有イメージ



覚生川砂防堰堤群(建設中)



平成31年度（継続）

胆振海岸 海岸保全施設整備事業

（直轄）

1. 概要

胆振海岸は北海道の物流の要である苫小牧港の西側に位置する海岸であり、背後には重要交通網の国道36号、JR室蘭本線が隣接するとともに、それらに面して住宅が密集しています。当海岸では、海岸侵食の進行に伴い、夏期から秋期にかけての台風や季節風による波浪災害が頻発しており、住民生活、経済活動に重大な影響を及ぼしていることから、海岸侵食対策として人工リーフ整備を推進します。

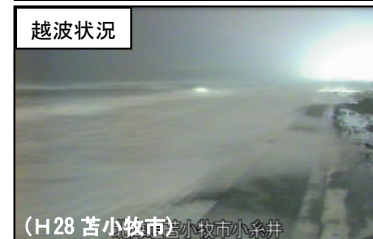
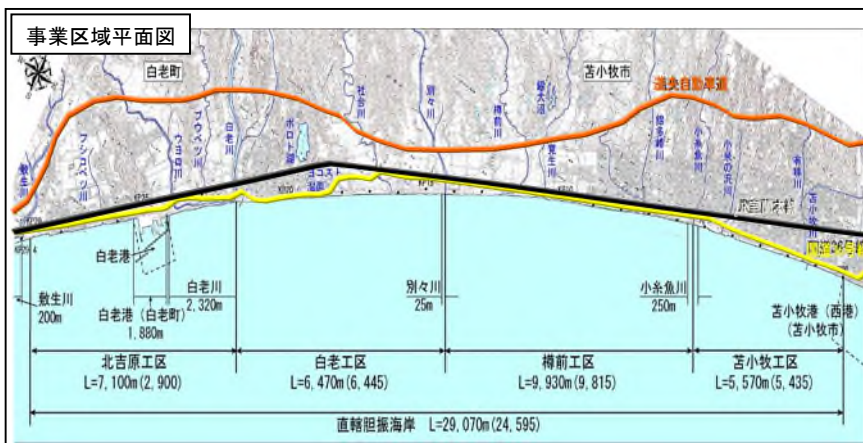
2. 計画内容

箇所名：苫小牧市、白老町

直轄区間延長：L=24.595km

事業開始時期：昭和63年度

H31実施内容：白老工区 人工リーフ 等



平成31年度（継続）

くしろ 釧路川総合水系環境整備事業

（直轄）

1. 概 要

釧路湿原は、我が国最大の湿原であり、昭和55年に国内最初のラムサール条約による国際保護湿地として登録され、次いで昭和62年には湿原単体としては初めて国立公園に指定されているなど、豊かな自然環境に恵まれています。しかし、流域の発展に伴い釧路湿原の面積が急激に減少し、乾燥化などによる質的な変化が現れています。

このため、平成15年の自然再生推進法の施行を受け、同年に地域住民、学識者、関係行政機関等多様な主体の参加による「釧路湿原自然再生協議会」が設立され、平成17年には、同協議会により「釧路湿原自然再生全体構想」が策定され、地域の協働のもと釧路湿原の保全・再生に取り組んでいます。一方で、地域産業と連携した湿原のワイズユースにより、湿原を保全・再生し、将来にわたり地域産業が豊かになる取組も進めています。

2. 計画内容

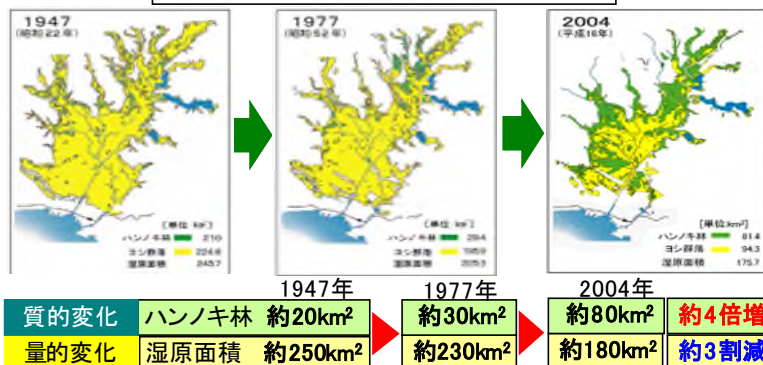
箇 所 名：標茶町、鶴居村

実 施 内 容：旧川復元（茅沼地区、又マオロ地区）、土砂流入対策（久著呂川）、湿原再生（幌呂地区）

事業予定期間：平成13年度～平成45年度

H31実施内容：土砂調整地（久著呂川）、湿原再生（幌呂地区）、調査設計（又マオロ地区）等

湿原面積の急激な減少と湿原植生の変化



流域の経済活動の拡大に伴い、この60年間で湿原面積の約3割が減少、ハンノキ林が約4倍に拡大。



釧路湿原自然再生の取組状況（赤：釧路川総合水系環境整備事業）



茅沼地区の旧川復元（モニタリング中）

2. 道路事業

<基本方針>

第8期北海道総合開発計画(平成28年3月29日閣議決定)に基づき、「世界の北海道」を目指して、「食料供給基地としての持続的発展」、「『観光先進国』実現をリードする世界水準の観光地の形成」及び「強靱な国土づくりと安全・安心な社会基盤の形成」を推進するための社会資本整備等を重点事項として実施します。とりわけ、平成30年北海道胆振東部地震を始めとする北海道における大規模自然災害からの復旧・復興に取り組むとともに、災害により大きな打撃を受けた戦略的産業である「食」・「観光」の振興に取り組む。具体的には、食料供給基地からの物流や観光地への物流・人流が重要であるため、物流・人流の効率化を図る高規格幹線道路ネットワーク等の構築を推進する。更に、安全・安心な地域づくりのために、道路の防災対策、老朽化対策、交通安全対策や無電柱化等を推進します。

また、外国人ドライブ観光を推進するための環境整備等や、世界水準のサイクリング環境を構築してサイクルツーリズムを推進するためのモデルルートによる試行結果を踏まえた今後の取組の方向性に基づき、引き続き推進に向けて取り組むとともに、産学官民が広く連携し除雪現場の省力化に関する様々な活動を行う「i-Snow」の取組により、人口減少下でもヒトとモノの交流・対流を活性化できる産業構造、経済活動の維持・発展を推進します。

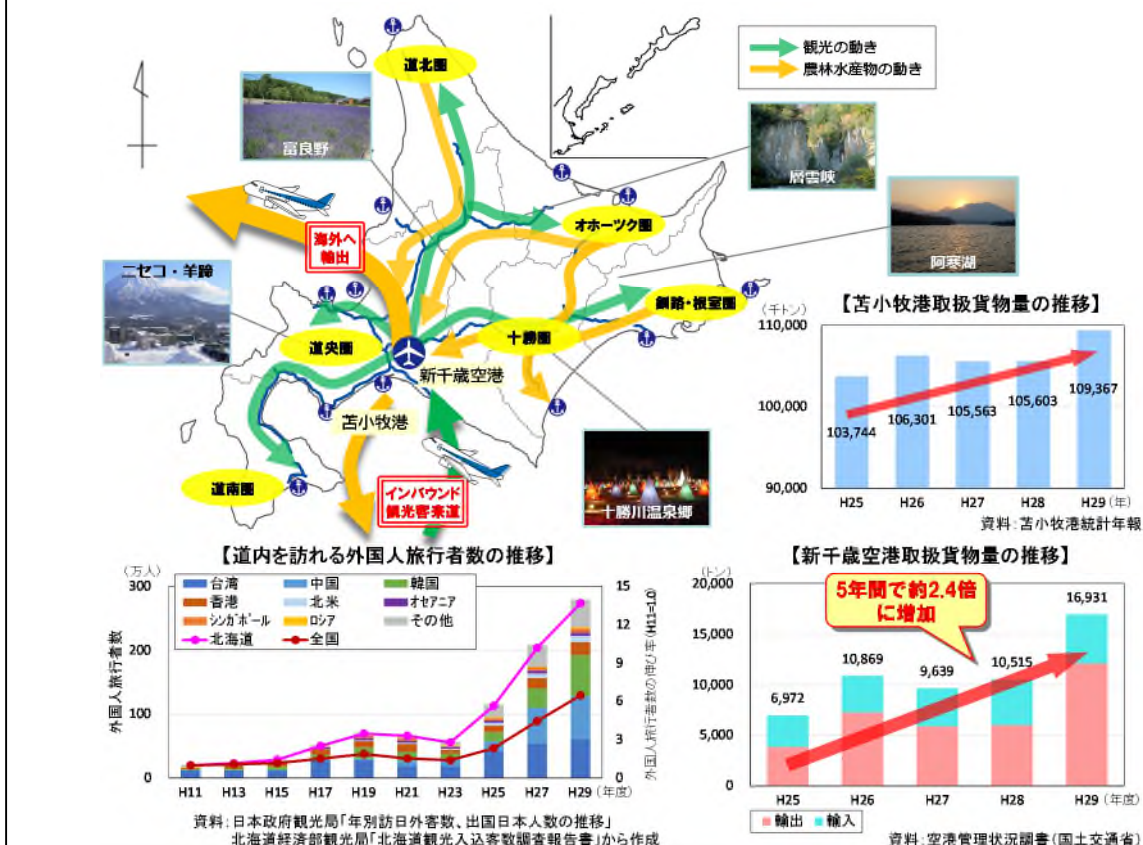
<主要施策>

1 食料供給基地としての持続的発展及び「観光先進国」実現をリードする世界水準の観光地の形成

(1) 広域分散型の地域構造を支える道路ネットワークの形成

北海道内外の人流や物流の拡大、地域・拠点間の連携を確保するため、高規格幹線道路等のネットワークの構築を推進します。

■高規格幹線道路等の拡充により、交流・物流拠点や拠点都市と生産地、観光拠点との連携交流の拡大、物流効率化による地域産業の活性化、定住環境の維持に寄与



＜生産性向上が見られたストック効果① 道東自動車道・釧路外環状道路の延伸－観光活性化を支援＞

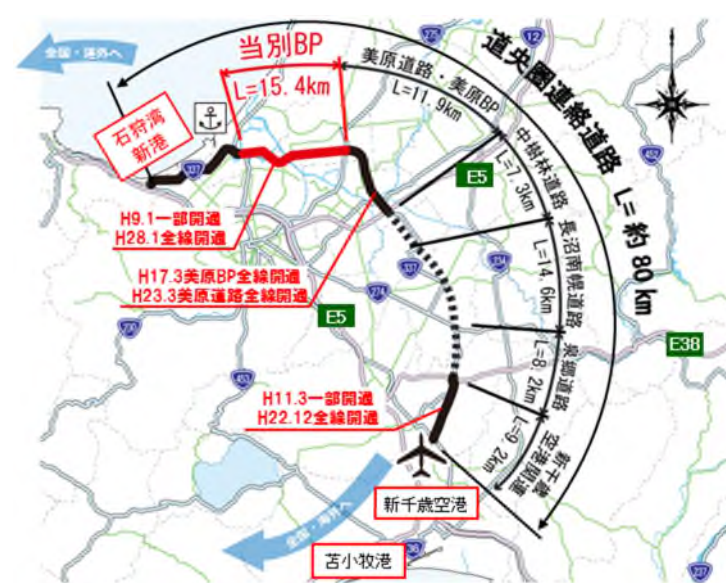


○平成28年3月の北海道横断自動車道(白糠IC～阿寒IC)と釧路外環状道路(釧路西IC～釧路東IC)の延伸により、釧路・根室地域へのアクセス性が向上し、地域内の道の駅来訪者が約1.4倍に増加

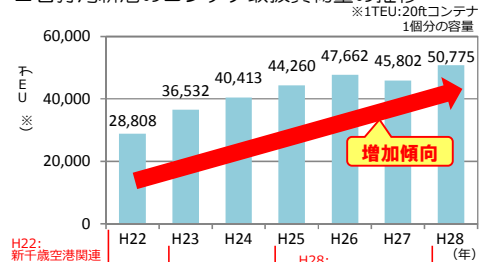
○インバウンド観光客に人気の北根室ランチウェイや厚岸蒸留所等への更なる来訪者数増加が期待されるなど、釧路・根室地域の観光活性化を支援

＜生産性向上が見られたストック効果② 道央圏連絡道路(当別バイパス全線4車線開通)＞

■道央圏連絡道路の整備状況



■石狩湾新港のコンテナ取扱貨物量の推移



■石狩湾新港からの再生資源輸出量(鉄スクラップ)



■石狩湾新港のリサイクル関連企業操業社数推移



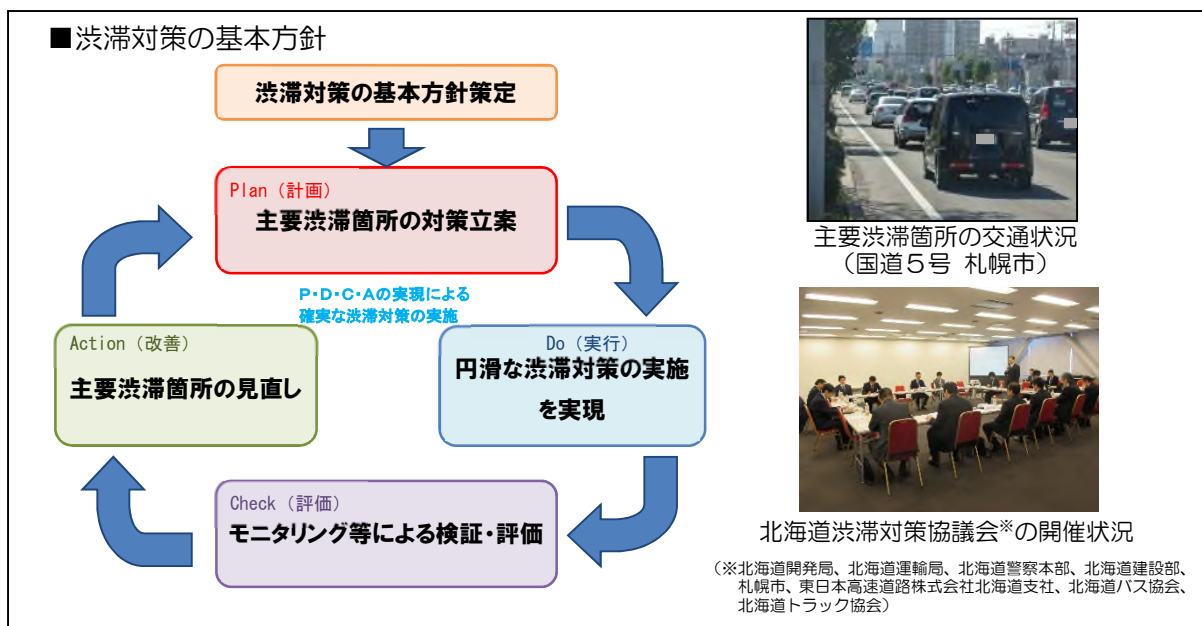
○石狩湾新港の整備に伴いコンテナ取扱貨物量は増加傾向であり、道央圏連絡道路の交通量も増加傾向

○石狩湾新港・道央圏連絡道路の整備に伴いリサイクル関連企業が増加し、再利用資源輸出量が増加

(2) 渋滞対策の推進

北海道渋滞対策協議会において特定されている主要渋滞箇所（道内全路線：188箇所）の解消に向けた検討・対策を実施します。

（平成31年3月現在 対策中：84箇所、検討中：108箇所）



官民連携による渋滞対策の推進

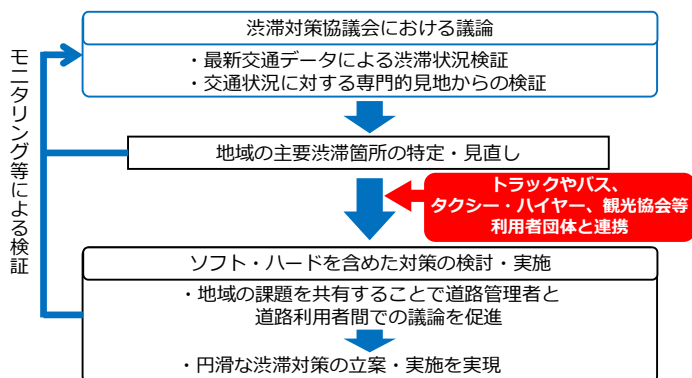
【概要】

道路管理者、警察等から構成される渋滞対策協議会において、効果的な対策を検討・実施しています。

この渋滞対策協議会とトラックやバス等の利用者団体との連携を強化し、利用者目線で対策箇所を特定した上で、速効性のある渋滞対策を実施します。

平常時・災害時を問わない安全かつ円滑な物流等を確保するため、主要幹線道路の沿道において、大規模施設の立地者に対して、交通アセスメント等の実施を求めるなど、接道承認時の審査強化を導入します。

【渋滞対策の流れ】



【主な事業箇所・事業内容】

国道 275 号 本町交差点
（一般国道 275 号×市道北 13 条北郷通）

国道 275 号に右折レーンが無い
ため、滞留する右折車両に直進交通が
阻害され渋滞が発生

（右折レーンの設置を予定）



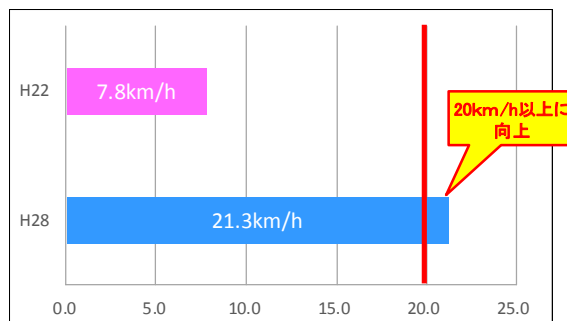
＜主要渋滞ポイントの解消事例 国道12号×国道275号（札幌市）＞

～苗穂交差点の整備（拡幅）の完了により、国道12号および国道275号の旅行速度が改善～

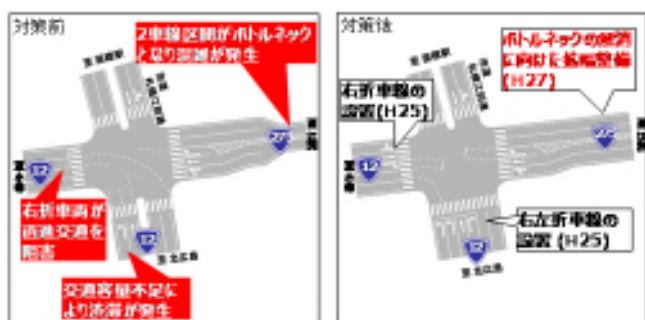
■位置図



■旅行速度の変化



■対策内容



■現地調査結果



(3)「生産空間」の生活を支える「道の駅」の活用・充実

制度発足から27年、「道の駅」は全国各地に広がっています（道内124駅：第50回登録時）。当初は通過する道路利用者へのサービスが中心でしたが、現在は観光、産業、福祉、防災等、地域資源の活用や地域の課題解決を図るための拠点、目的地にもなっています。

北海道の地方部に広域に分散している「生産空間」の維持・発展のため、地域公共交通の交通結節点や、日常生活に必要なサービスを提供する場として活用する等、人流・物流の交通ネットワークと日常生活機能を保持する取組を推進します。

■生産空間の維持・発展のために「道の駅」を活用した取組のイメージ

～交通結節点機能の強化～

道の駅「コスモール大樹」を拠点とした自動運転サービス実証実験を平成29年度より実施。平成31年度はビジネスモデル構築のため、長期間（1～2ヶ月程度）の実験を実施し、社会実装に向けた取組を推進します。



～道の駅の物流ネットワーク化～

地方部での生活を支える日常買い物の利便性向上や産直品の販路拡大、「道の駅」間の物流ネットワーク構築について検討します。

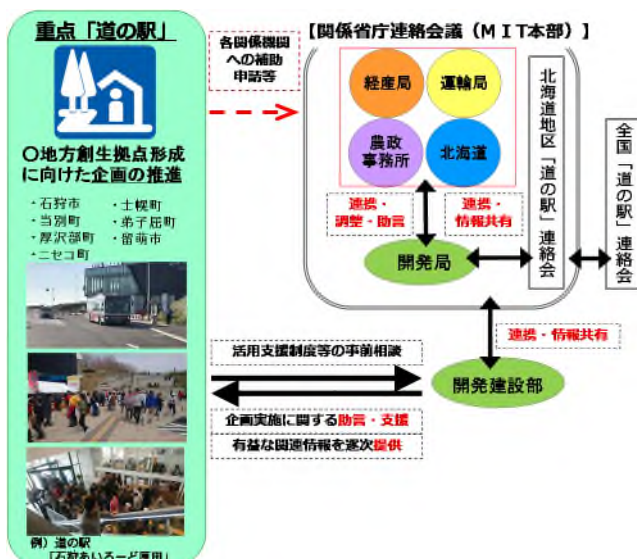


「道の駅産直カレンダー」充実

■「道の駅」の支援

重点「道の駅」の支援体制

地方創生の核となる特に優れた取組を選定し、関係省庁と連携して重点的に応援する取組を実施しています。



「道の駅」の魅力向上・機能向上への支援

道の駅SPOT（無料公衆無線LAN）の整備や、防災拠点としての機能強化等、「道の駅」の魅力・機能向上への支援を実施しています。

○インバウンド観光の促進

- ・道の駅SPOT（Free Wi-Fi）、EV充電器の設置
- ・日本政府観光局（JNTO）認定の外国人観光案内所
- ・地域の特産品を購入できる免税店 等

○防災拠点としての機能強化

- ・地域住民や道路利用者に対して、情報提供や避難場所としての開放、防災拠点として必要な資機材の整備 等



【JNTO認定外国人案内所（認定区分）】

カテゴリー3	・全国レベルの観光案内を提供 ・英語スタッフが常駐かつ英語以外の2言語対応が可能
カテゴリー2	・広域の観光案内を提供 ・英語のスタッフが常駐
カテゴリー1	・地域の観光案内を提供 ・パートタイムや電話通訳、多言語音声翻訳システムで英語対応が可能
パートナー施設	・観光案内を専業としない施設であっても、外国人旅行者を積極的に受け入れる意欲があり、公平・中立な立場で地域の案内を提供 ・パートタイムや電話通訳等で英語対応が可能など

(4) 外国人ドライブ観光の推進

旅行者の周遊を促進するため、北海道の雄大な景観の中での移動そのものも楽しむ「ドライブ観光」や「サイクルツーリズム」を推進します。

- ① 安全で安心な外国人観光客のドライブ観光を推進するため、英語による道路情報提供や外国語パンフレットの作成・配布等ストレスフリーな環境整備を推進します。



「通行止め解除予告」の英語表示



「エゾ鹿衝突事故マップ」



「冬道ドライブの心構え」

- ② 外国人旅行者の急増、個人旅行化に対応するとともに、レンタカーを利用するドライブ観光を推進するため、多言語による道路情報提供など安全・安心なドライブ環境を創出するとともに良好な景観形成に取り組みます。

■多言語でのドライブ情報発信

- スマートフォンアプリを活用し、外国人観光客の多い地域で、多言語による道路案内標識情報や道の駅施設情報などの情報発信に取り組みます。

○進行方向の案内(音声案内)



▲日本語での表示
(イメージ)



▲多言語での表示
(イメージ)

○道の駅施設情報



▲日本語での表示
(イメージ)



▲多言語での表示
(イメージ)

(5) 「シーニックバイウェイ北海道」の推進

ドライブ観光を推進する「シーニックバイウェイ北海道」において、地域の魅力ある道路景観が観光目的となるよう、秀逸な道について、ドライブ観光客への情報発信・誘導、景観の重点的保全を行うなど、地域と協働した取組を推進します。

シーニックバイウェイ「秀逸な道」の概要

○シーニックバイウェイ「秀逸な道」とは、「世界水準」の観光地の形成に向け、地域と道路管理者との協働で、地域の魅力ある道路景観の重点的保全を行う取組。

○平成30年度に調査した観光客の意見等を地域にフィードバックし、取組内容の充実や標識の集約・撤去等の道路景観の保全を行うとともに、ドライブ観光客等へ情報発信等を行います。

試行区間 支笏洞爺ニセコルート
ウェルカム北海道エリア



国道453号 千歳市幌美内 支笏湖の景観

▼景観の重点的な保全



整備前



整備後

景観改善事例：標識の集約、撤去

（６）北海道におけるサイクルツーリズムの推進

世界水準のサイクリング環境を構築してサイクルツーリズムを推進するため、平成 30 年度に、道内 5 つのモデルルートにおける 2 年間の試行結果を踏まえた今後の取組の方向性を取りまとめました。

平成 31 年度においては、取組の方向性に基づき、地域や道路管理者等が連携し、安全で快適な自転車走行環境の創出、サイクリストの受入環境の改善及び情報発信等の本格的な取組を実施します。

サイクルツーリズムの推進（全体像）



○受入環境の改善

▼休憩施設の充実



サイクルラックや
修理工具の設置
(道の駅等の立寄施設)

▼移動のサポート



路線バスを活用した
自転車輸送

ルートの案内や周知



○自転車走行環境の改善



案内シールによるルートの案内



路面への通行位置明示

○情報発信・サイクリストとのコミュニケーション



- ・モデルルートの地図や高低差、ビューポイントや休憩施設などのスポット情報を発信。
- ・利用者から評価・意見を投稿いただきサイクリング環境を改善。

2 強靱な国土づくりと安全・安心な社会基盤の形成

(1) 道路の防災・減災対策

地震・津波による被害や社会的影響を最小限に抑えるため、代替性確保のための高規格幹線道路等の整備や緊急輸送道路上の橋梁の耐震補強、道路斜面や盛土等の防災対策を推進します。

また、重要インフラの緊急点検結果等を踏まえ「国民経済・生活を支える重要インフラ等の機能維持」の観点から、特に緊急に実施すべきハード・ソフト対策について、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に集中的に取り組みます。



(2) 冬期交通の安全確保と暴風雪災害時におけるきめ細かな地域支援

安全で円滑な冬期道路交通の確保を図るため、気象状況や交通状況等を踏まえて、適切なタイミングで除排雪作業を実施します。また、関係機関で組織されている道路防災連絡協議会で相互の連携強化を図るとともに、地方公共団体への支援のため除雪機械の貸付やリエゾン^注の派遣による災害関連情報の共有等の支援体制構築について継続的に実施します。

(注: 重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員)

■ 道路除雪実施状況



除雪作業



運搬排雪

■ 情報提供の充実



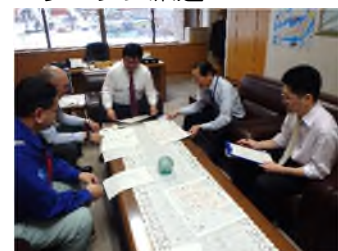
国道の通行規制情報や、災害情報をSNS (Twitter, Facebook) で情報提供。



■ 道路防災連絡協議会



■ リエゾン派遣



(3) 道路施設の老朽化対策

安全・安心の確保のため、インフラ長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、将来にわたって必要なインフラの機能を発揮し続けるための取組を推進します。

■定期点検及び点検結果を踏まえた措置等の着実な推進

- 道路メンテナンス会議等を活用し、点検結果を踏まえた、計画的・効率的な維持管理の実施に向けた情報共有・支援を実施
- 「事後保全」から「予防保全」への転換により、長期的な修繕コストを縮減・平準化

■技術支援等の取組

- 点検の質の向上や効果的な修繕技術の習得を目的とした、地方公共団体職員等向けの研修等を実施



地方公共団体職員向け研修状況



橋梁の点検状況



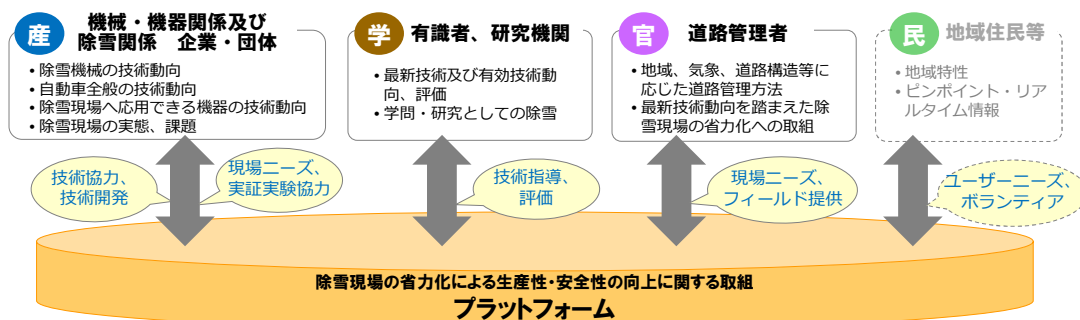
トンネルの点検状況

(4) 除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組（i-Snow）

近年の除雪現場における課題（異常気象等に伴う冬期災害や通行止めの頻発、除雪車オペレータの高齢化に伴う人員確保など）に対応するための活動を展開し、生産性・安全性の向上に資する取組です。

北海道における除雪関係者が除雪現場、除雪技術等に関する横断的な連携・情報共有を図ることと、除雪現場の省力化を進め人口減少下でもヒトとモノの交流・対流を活性化できる産業構造、経済活動を維持・発展させます。

■活動イメージ

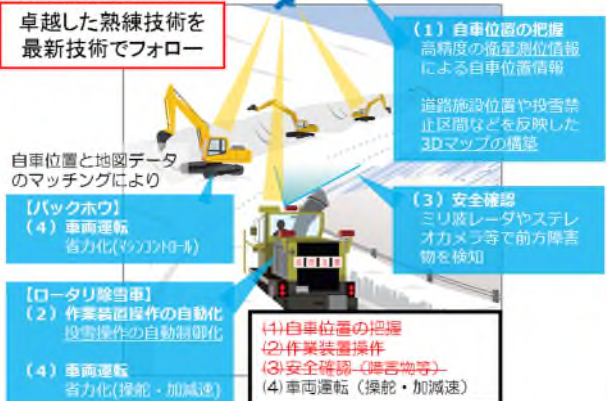


■具体的な取組

現状の冬期通行止区間（R334知床峠）春山除雪



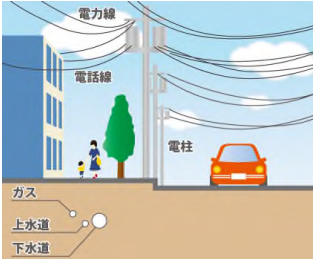
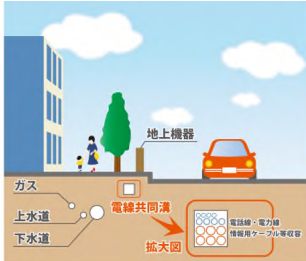
省力化のイメージ



平成 31 年 3 月 20 日～4 月下旬に新型ロータリ除雪車で実証実験開始

（５）無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から、無電柱化推進計画に基づき、無電柱化を推進します。

■現状の課題	■整備イメージ
 電柱の倒壊による道路閉塞*  歩行等の支障となる電柱	整備前  整備後 
景観の阻害 * 出典：国土交通省 道路局 HP	■整備済み区間の例 整備前  整備後  災害時に強く、より安全に 写真 国道39号 北見市本町

（６）交通安全対策の推進

ビッグデータを活用した生活道路対策等の実施により、速度抑制や通過交通の進入抑制を図り、歩行者・自転車中心の空間づくりを推進します。

① 生活道路対策の実施

札幌市豊平区的美園地区において、通学路をはじめとしたエリア内の安全確保を目的として、住民との合意形成を図りながら対策を実施。

■課題を踏まえた対策内容

- 重点対策区間では、半数以上が速度超過
⇒ 速度抑制対策（減速路面標示、ゾーン 30 標識、交差点明示マーク）
- エリア内交通の 7 割以上がエリア内に発着地点を持たない通過交通
⇒ 通過交通の進入抑制対策及び速度抑制対策（ゾーン 30 路面標示、外側線表示、交差点カラー化）

[illegible]

② 効果的・効率的な事故対策の推進

事故データ、地域の声やビッグデータを活用した分析により、事故の危険性が高い区間等を抽出して重点的な対策を実施する事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）を推進するとともに、高速道路の暫定2車線区間については、正面衝突対策としてワイヤロープの設置を計画的に推進します。

■事故原因に即した効果の高い対策を立案・実施



【ビッグデータの活用】



【現地合同点検状況】



【上下車線を分離する中央分離帯設置の例】



【 参考 】

道路ネットワーク図
(2019(平成31)年度開通予定区間)

凡 例	
高規格幹線道路	
	開 通 区 間
	事 業 区 間
	計 画 区 間 (予定路線含む)
地域高規格道路	
	開 通 区 間
	事 業 区 間
	計 画 区 間

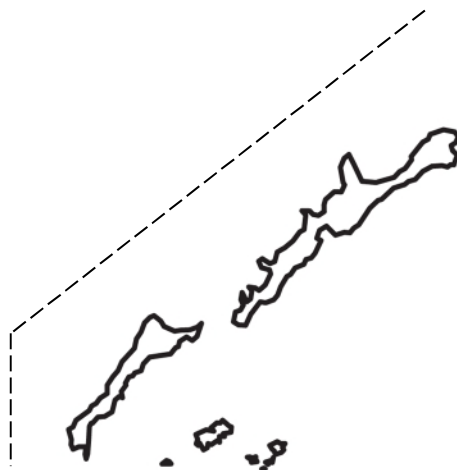
凡 例		
空 港	国 管 理	
	特定地方管理	
	地方管理	
港 湾	国際拠点	
	重 要	



○高規格幹線道路の整備状況

高規格幹線道路		総延長	2018(平成30)年度末	
			開通延長	進捗率
全 国		約14,000km	11,906km	(85%)
	高速自動車国道※	11,520km	10,057km	(87%)
	一般国道自動車専用道路 (本州四国連絡道路を含む)	約2,480km	1,849km	(75%)
全 国 (北 海 道 を 除 く)		約12,175km	10,741km	(88%)
北 海 道	高速自動車国道※	10,145km	9,166km	(90%)
	一般国道自動車専用道路 (本州四国連絡道路を含む)	約2,030km	1,575km	(78%)
		1,825km	1,165km	(64%)
北 海 道	高速自動車国道※	1,375km	891km	(65%)
	一般国道自動車専用道路	450km	274km	(61%)

※高速自動車国道には、高速道路に並行する一般国道の自動車専用道路の延長を含む



平成31年度の道路調査の見通しについて

個別路線の事業化に向けて、ルート・構造検討に係る調査等を進めます。
主な調査箇所は、下記の通りです。

【主な調査箇所】

概略ルート・構造の検討(計画段階評価を進めるための調査)

一般国道5号

そう せい がわ どおり
創成川通

日高自動車道

しずない みついし
静内～三石

旭川・紋別自動車道

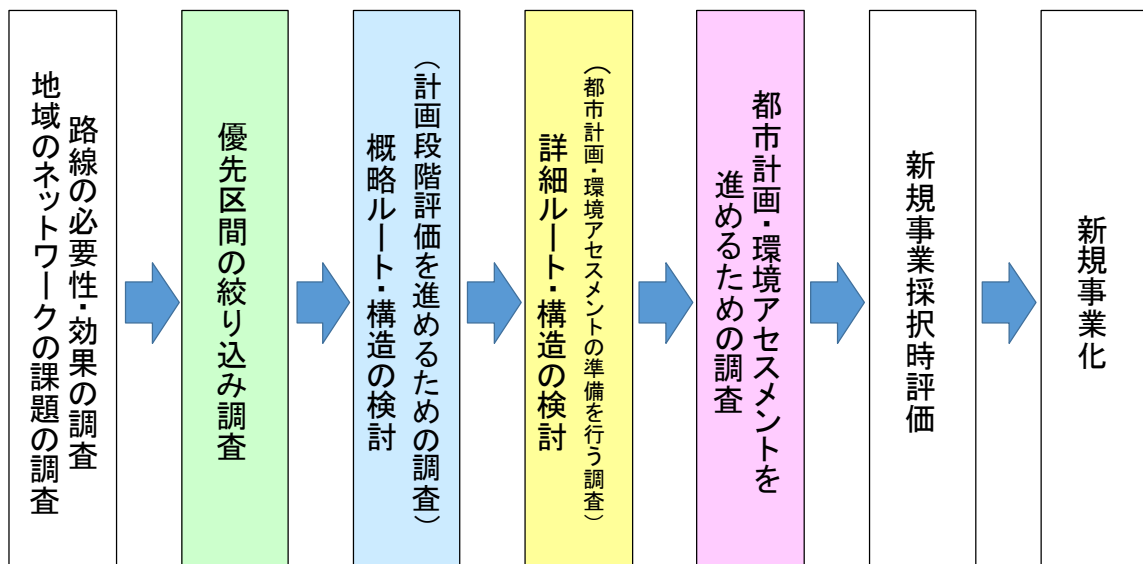
えんがる かみゆづべつ
遠軽～上湧別

一般国道5号 創成川通りについては、概略ルート・構造の検討を進め、その結果を踏まえ、都市計画・環境アセスメントを進めるための調査を実施します。

その他の未整備区間についても、当該地域の交通状況、社会経済状況や道路網の課題等を調査し、優先区間の検討や地域の道路網の中での必要性・整備効果の整理等を進めます。

また、渋滞、交通安全など、地域における道路交通に関する課題、サービスレベルを把握するためのデータ収集・分析等を行うとともに、路線の必要性、緊急性、妥当性に関する基礎的な調査を実施します。

＜道路調査の流れ＞



2019(平成31)年度(開通予定)

E62 深川・留萌自動車道(一般国道233号) 幌糠留萌道路

(直轄)

1. 概要

深川・留萌自動車道 幌糠留萌道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、重要港湾留萌港等への物流効率化等の支援を目的とした、延長13.0kmの一般国道の自動車専用道路です。

2019年度は、留萌大和田IC～(仮)留萌ICの開通に向けた工事を重点的に進めます。

2. 計画内容

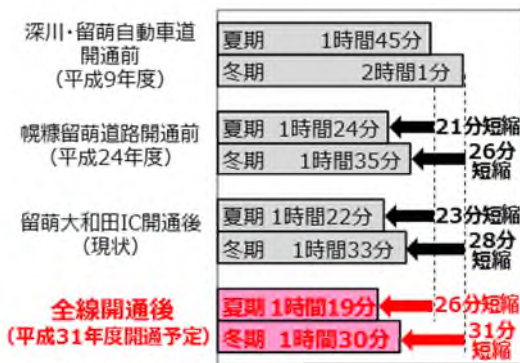
事業区間：北海道留萌市大字留萌村字幌糠～北海道留萌市堀川町延
 長：L=13.0km
 2019年度開通予定：L=4.1km(留萌大和田IC～(仮)留萌IC)



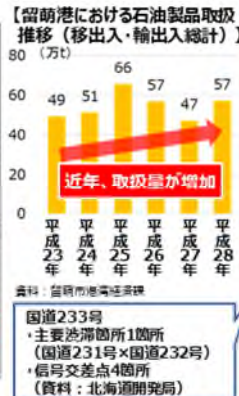
■高速ネットワークの形成

高速ネットワークの拡充により近隣都市間の連絡が強化され、重要港湾留萌港への物流効率化が期待される。

【留萌市～旭川市間の所要時間の変化】



【重要港湾留萌港の利便性向上】



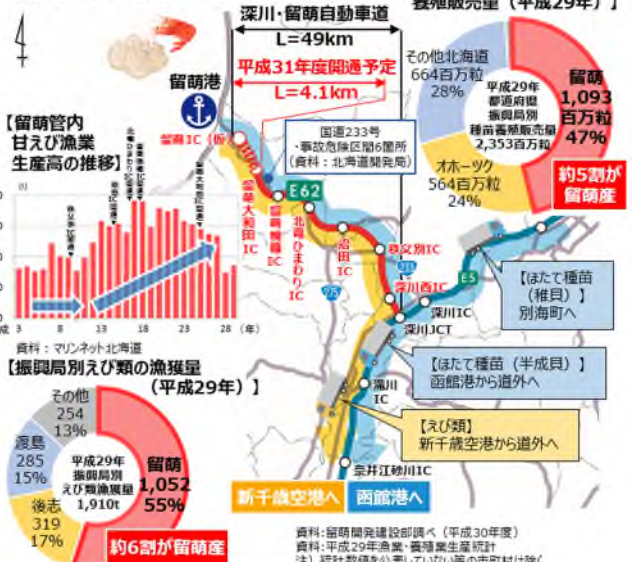
【石油製品及び石炭の輸送状況】



【“音楽合宿のマチ”留萌市への利便性向上】



【水産品の流通利便性向上】



2019（平成31）年度（開通予定）

E39 あさひかわ もんべつ 旭川・紋別自動車道（一般国道450号） 丸瀬布遠軽道路 まるせつぶえんがる

（直轄）

1. 概要

旭川・紋別自動車道 丸瀬布遠軽道路は、高速ネットワークの拡充による道央圏・道北圏とオホーツク圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び物流の効率化等の支援を目的とした延長18.0kmの一般国道の自動車専用道路です。

2019年度は、遠軽瀬戸瀬IC～遠軽ICの開通に向けた工事を進めます。

2. 計画内容

事業区間：北海道紋別郡遠軽町丸瀬布南丸
～北海道紋別郡遠軽町豊里

延長：L=18.0km

2019年度開通予定：L=6.8km（遠軽瀬戸瀬IC～遠軽IC）



■高速ネットワークの形成

道央・道北圏とオホーツク圏の連絡機能が強化され、地域間交流活性化及び物流の効率化が期待される。
【旭川市～紋別市間の所要時間の変化】

旭川・紋別自動車道 開通前（平成12年度）	夏期 3時間34分 冬期 3時間55分	
丸瀬布遠軽道路 開通前（平成28年度）	夏期 2時間53分 冬期 3時間06分	← 41分短縮 ← 49分短縮
遠軽瀬戸瀬IC 開通後（現状）	夏期 2時間49分 冬期 3時間02分	← 45分短縮 ← 53分短縮
遠軽IC開通後 （平成31年度開通予定）	夏期 2時間47分 冬期 3時間00分	← 47分短縮 ← 55分短縮

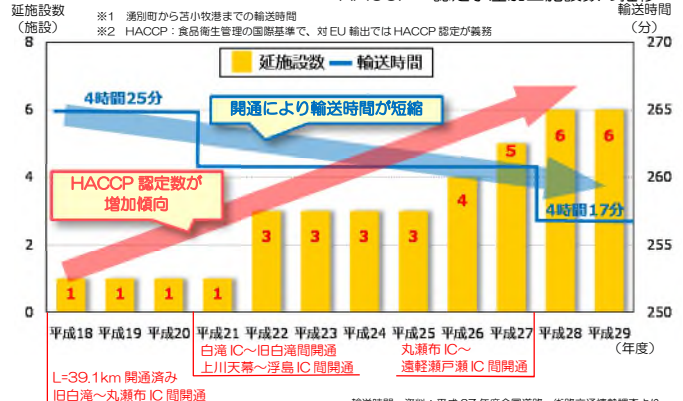
資料：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査より

【オホーツクのホタテ産業の振興に貢献】



▼物流拠点（苫小牧港）までの輸送時間^{*1}の変化と

HACCP^{*2}認定水産加工施設数の推移



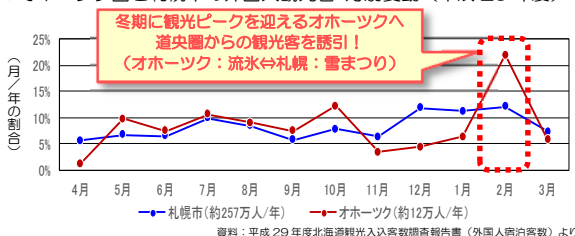
輸送時間 資料：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査より
オホーツク管内のHACCP認定水産加工施設 資料：（一社）大日本水産会HPより

【冬の道央圏とオホーツク圏を結ぶ広域周遊観光ルート】



※「O」の大きさは観光入込客数の差をイメージ
○内は外国人観光客数

▼オホーツク圏と札幌市の外国人観光客 月別変動（平成29年度）



資料：平成29年度北海道観光入込客数調査報告書（外国人観光客数）より

トピック：新たな観光施設の整備

地域外からの活力を呼びこむゲートウェイ機能に重きを置き、スキー場ロッジ機能やオホーツク産品を網羅する物販・直売、飲食機能を柱として遠軽IC直近に整備（平成31年度開業予定）



資料：遠軽町HPより

2019(平成31)年度(開通予定)

E44 一般国道44号 ねむろ 根室道路

(直轄)

1. 概要

一般国道44号ねむろ根室道路は、現道の交通事故低減及び冬期間の地吹雪等による冬期交通障害の解消による道路交通の定時性、安全性を目的に、現道を迂回し、ねむろ おんねとう ねむろ ほにおい を結ぶ、延長7.1kmのバイパス事業です。

2019年度は、(仮)おんねとうIC～(仮)ねむろICの開通に向けた工事を重点的に進めます。

2. 計画内容

事業区間：北海道ねむろ市温根沼～北海道ねむろ市穂香

延長：L=7.1km

2019年度開通予定：L=7.1km((仮)温根沼IC～(仮)根室IC)

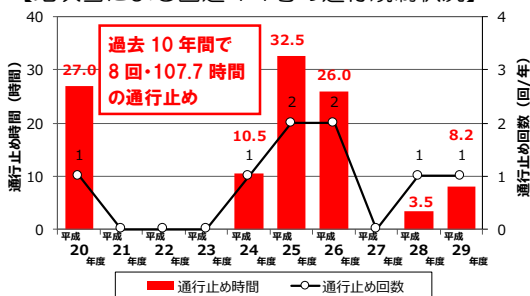


■高速ネットワークの形成

通行規制時の代替路を形成し、地吹雪に起因する交通障害の緩和や道路交通の確実性及び安全性の確保が期待される。

■交通障害の緩和

【地吹雪による国道44号の通行規制状況】



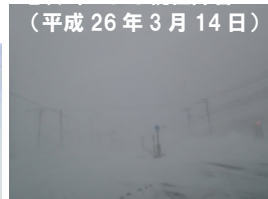
資料：釧路開発建設部調べ

【平成26年3月21日の暴風雪による通行止め状況】



資料：釧路開発建設部調べ

(平成26年3月14日)

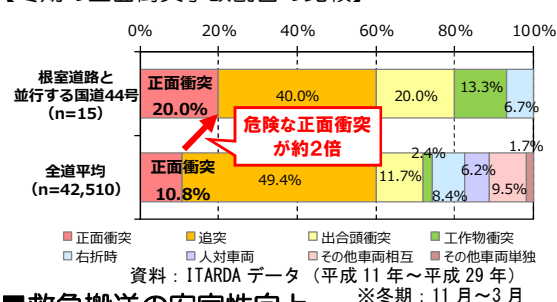


防風林の整備により地吹雪の発生を抑制



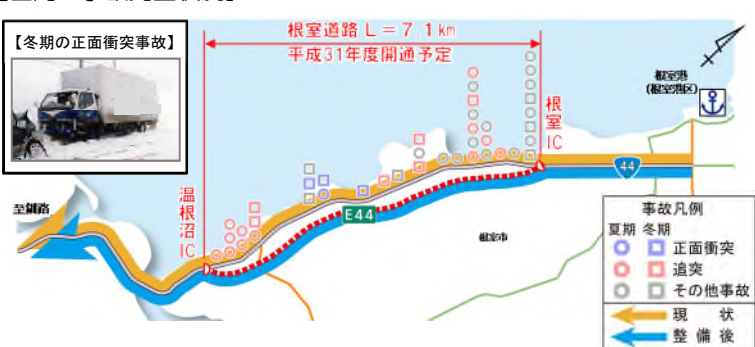
■道路交通の安全性向上

【冬期の正面衝突事故割合の比較】



資料：ITARDA データ (平成11年～平成29年) ※冬期：11月～3月

【現道区間の事故発生状況】

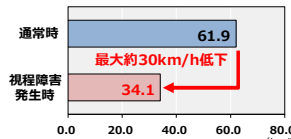


資料：ITARDA データ (平成11年～平成29年)

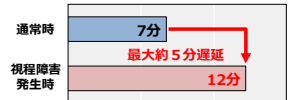
■救急搬送の安定性向上

【視程障害発生時の速度・所要時間の変化】

【釧路市～根室市間の旅行速度の変化】



【釧路市～根室市間の所要時間の変化】



資料：気象庁データ、プローブデータ ※平成28年12月～平成29年2月のデータから算定

【釧路市～根室市間の救急搬送状況】

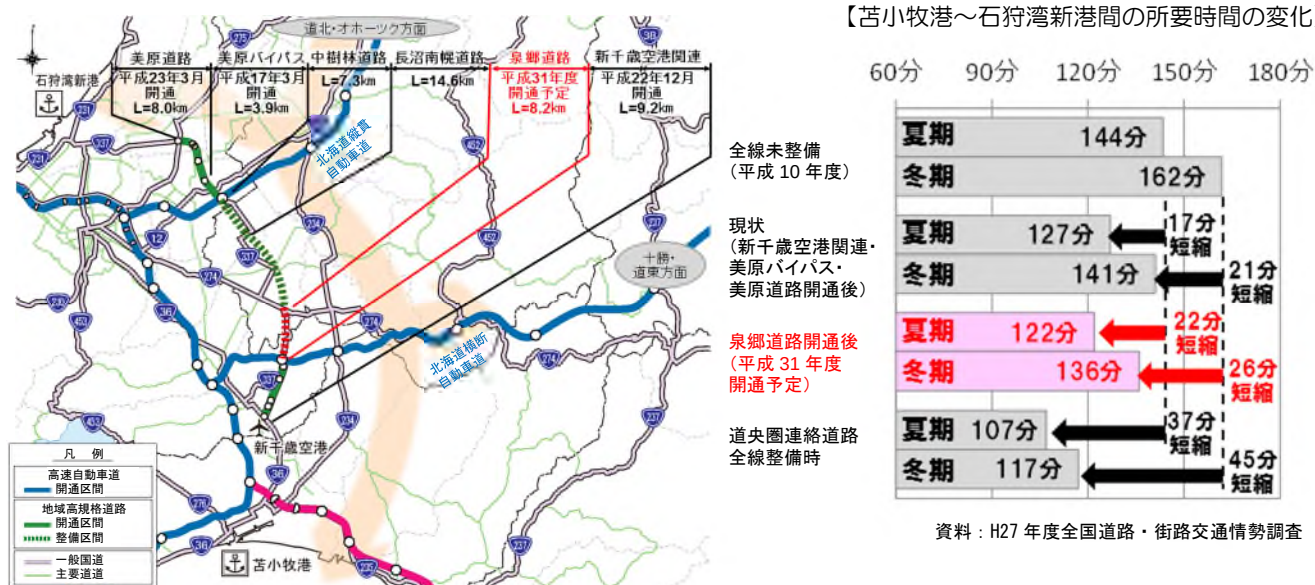


資料：資料：市立釧路総合病院 HP、市立根室病院 HP、市立根室病院救急搬送データ

(直轄)

2019年度は、千歳市中央～長沼町幌内間の開通にむけた工事を重点的に進めます

道央圏のネットワークが強化され、拠点間における物流輸送の利便性向上が期待される。



資料：H27 年度全国道路・街路交通情勢調査

石狩湾新港

道北・オホーツク方面

現在

奥郷道路整備
(道央圏連絡道路全線整備)

奥郷道路
平成31年度開通予定
L=8.2km

大型車混入率
34.1%

大型車混入率
43.8%

道央圏連絡道路
新千歳空港関連

新千歳空港

苫小牧港

凡例

- 高速自動車道
- 開通区間
- 地域高規格道路
- 開通区間
- 整備区間
- 一般国道
- 主要道路

Category	Percentage
道内平均 (In-lane Average)	29.5%
並行道路 (Parallel Lane)	55.6%

道内貨物事故の約2倍

並行現道の事故率が約4割減少

整備前	整備後
55.2	31.6

新千歳
空港関連
0.0

(件/1000台キロ)

資料：事故マッチングデータ
整備前（H6～H9 年）、整備後（H23～H26 年）

2019(平成31)年度(新規)

一般国道39号 たんのたかの 端野高野道路

(直轄)

1. 概 要

国道39号は、旭川市を起点として、上川町、北見市、美幌町を経由し、網走市に至る延長約216kmの幹線道路です。

このうち端野高野道路は、冬期災害に強い道路ネットワークを構築し、圏域中心都市と物流・観光拠点間のミッシングリンクを解消し、観光振興や地域産業の活性化に貢献すること等を目的とした延長14.3kmの一般国道のバイパス事業です。

2. 計画内容

箇所名: 北海道北見市端野町字川向～北海道網走郡美幌町字高野
 延長: $L = 14.3 \text{ km}$

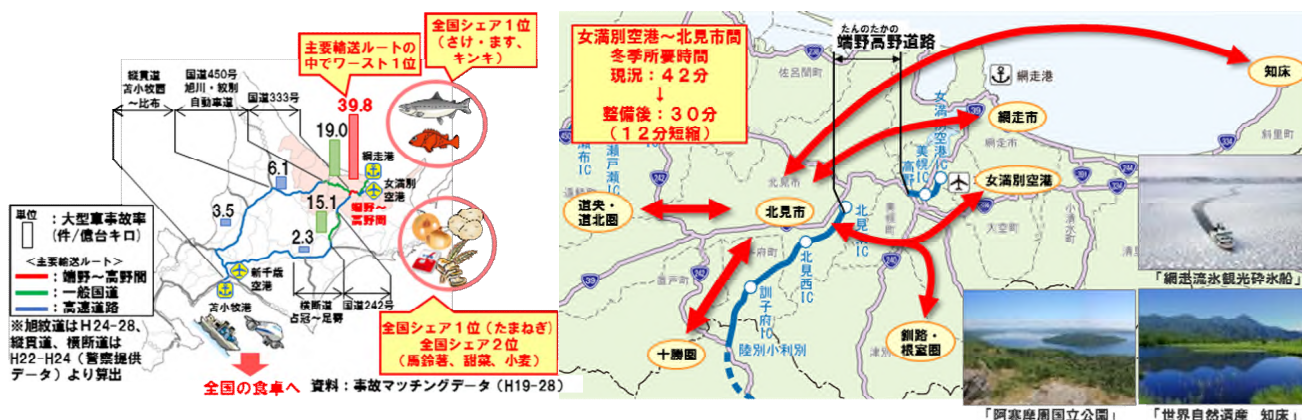
■冬季災害に強い道路ネットワークの構築

地吹雪多発箇所を回避し、冬季においても安全で信頼性の高い道路ネットワークを確保します。



■ミッシングリンクの解消による物流効率化や観光周遊性の向上

事故危険区間を回避し、安全性や輸送効率の高い物流ネットワークを形成し、地域産業の活性化に貢献。ミッシングリンクの解消により、女満別空港を利用する観光客の主要な目的地である北見市へのアクセスが向上するとともに、北見市を拠点としたオホーツク管内の観光周遊性が向上します。



2019(平成31)年度(新規)

一般国道44号 尾幌系魚沢道路

(直轄)

1. 概要

国道44号は、釧路市を起点として、釧路町、厚岸町を経由し、根室市に至る延長約124kmの幹線道路です。

このうち尾幌系魚沢道路は、津波浸水被害などの災害時の救急活動等においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築し、物流効率化や観光周遊性の向上を支援すること等を目的とした延長24.7kmの一般国道のバイパス事業です。

2. 計画内容

箇所名：北海道厚岸郡厚岸町尾幌～北海道厚岸郡厚岸町系魚沢
延長：L=24.7km

■災害時における信頼性の高いネットワークの構築

津波浸水予測範囲を回避する道路ネットワークを確保。冠水や吹雪(冬季)による通行止めを解消します。



資料：厚岸町津波ハザードマップ

■物流効率化や観光周遊性の向上

農水産品の輸送効率が向上し、事故が低減し、地域の基幹産業である農水産業の生産性向上に寄与。また、釧路根室地域が有する釧路湿原国立公園や野付風蓮道立自然公園等の観光地間の周遊性が向上し、地域の観光振興を支援します。

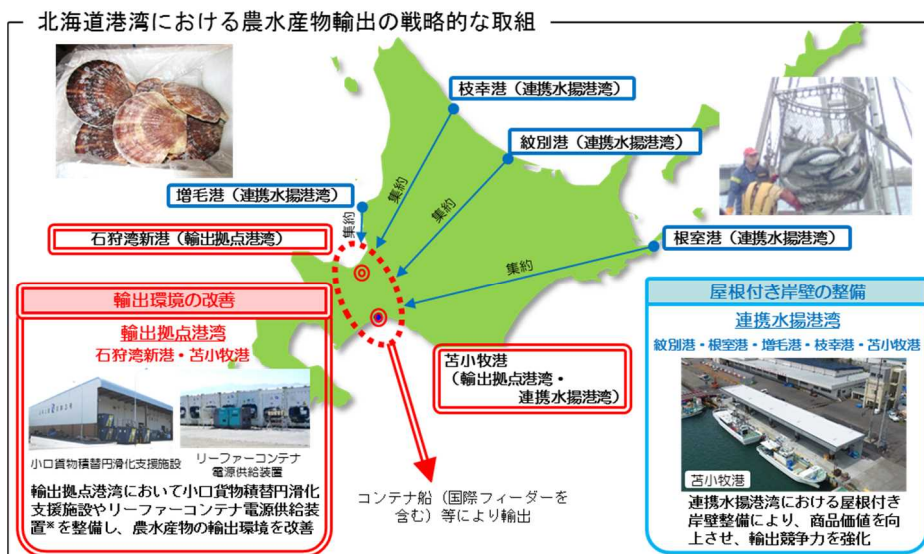


3. 港湾整備事業

1 食料供給基地としての持続的発展

(1) 農水産物輸出促進基盤の整備

新たな輸出成長分野として見込まれる農水産物の輸出増加に対応するため、農水産物の輸出に戦略的に取り組む港湾において、輸出促進に資する屋根付き岸壁や小口貨物積替円滑化支援施設※等の整備を推進します。

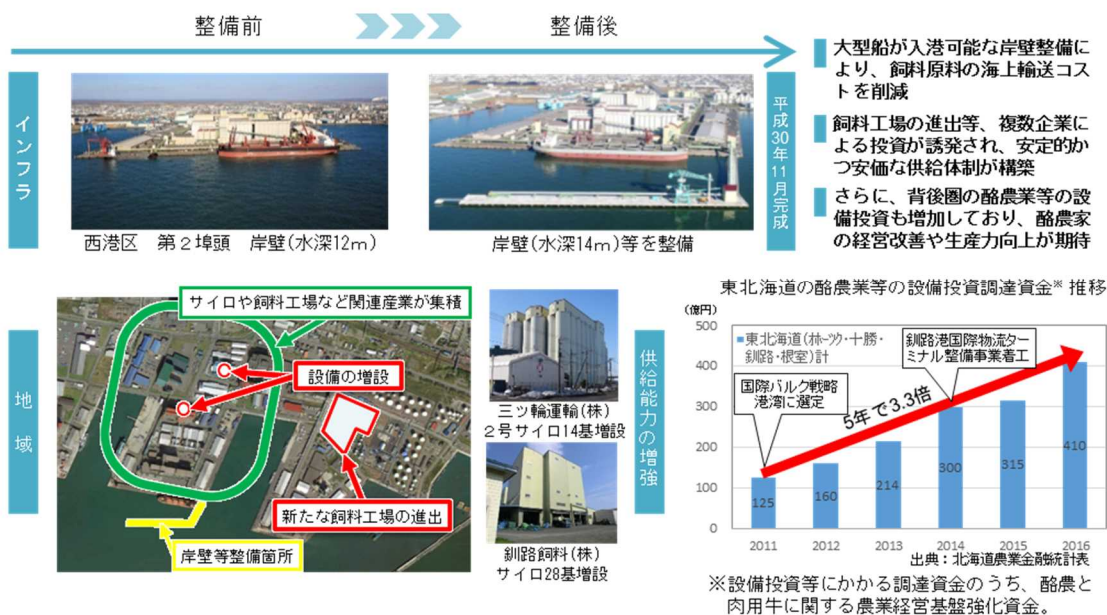


※港湾機能高度化施設整備費補助

(2) 国際物流機能の強化

北海道における国際物流の機能強化や安定性の確保を図るため、外郭施設や水域施設の整備を推進します。

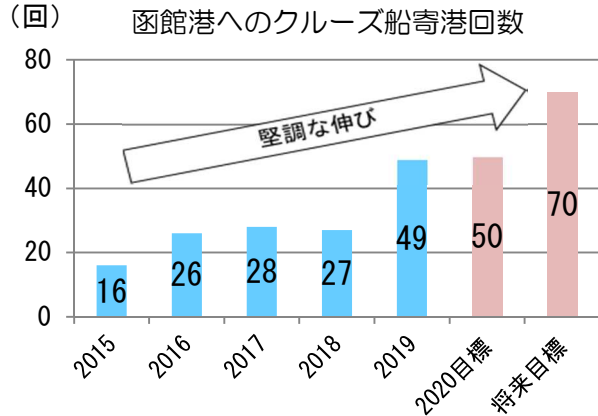
釧路港国際物流ターミナル整備事業のストック効果



2 「観光先進国」実現をリードする世界水準の観光地の形成

クルーズ船の受入環境の整備

増加するクルーズ需要やクルーズ船の大型化に対応するため、既存岸壁を活用した受入環境の整備を推進します。



既設岸壁を活用した受入環境整備（函館港）

3 北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

離島交通の安定的確保

定期フェリー航路等の安定化、物流機能の確保を図るため、港湾施設等の整備を推進します。



荒天時の越波等による港内擾乱状況（香深港）

4 防災、減災、国土強靱化と老朽化対策

港湾施設の国土強靱化対策

平成30年北海道胆振東部地震をはじめとする近年の自然災害から、国民の生命を守り、暮らしと経済を支える重要インフラについて対策を推進します。



老朽化が著しい港湾施設（左は稚内港北防波堤ドーム、右は苫小牧港西港区商港地区岸壁（南-10m）

平成31年度（新規）

苫小牧港 西港区真古舞地区

国際物流ターミナル整備事業

（直轄）

1. 概要

苫小牧港西港区は、内貿定期船等の船舶が多くの公共岸壁を利用しており、バルク貨物を取扱う公共多目的バースが不足し、中央北ふ頭では荷役を待つ滞船時間が8,000時間/年を超え、岸壁利用率が非常に高く混雑が発生しています。

中央北ふ頭の未利用水面の既存係留施設を有効活用し、大型船対応の連続バース化（-12m）を図り、中央北ふ頭の滞船を解消します。

2. 計画内容

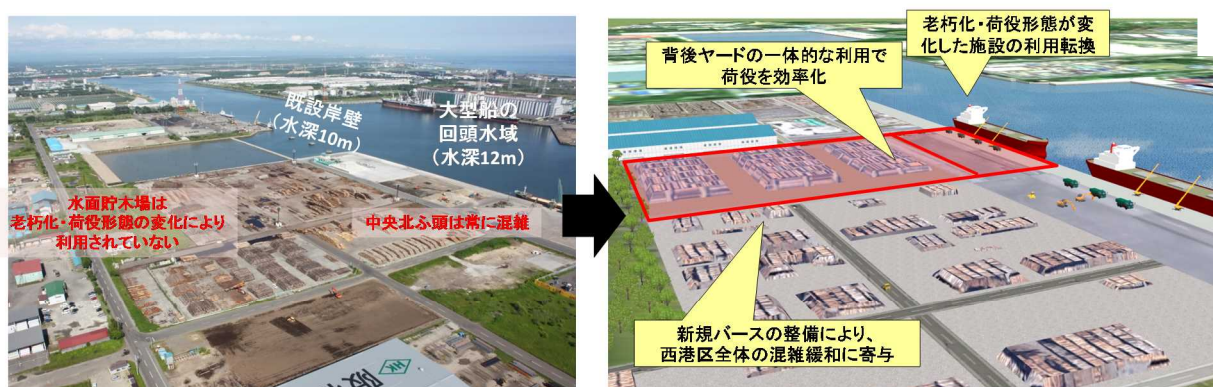
平成31年度整備施設：岸壁（中央北水深12m）（改良）、泊地（水深12m）、港湾施設用地

全体事業費：70億円（うち直轄65億円）

事業予定期間：平成31年度～平成34年度



【西港区真古舞地区における混雑対策】



＜中央北ふ頭3バース4隻係留状況＞



＜中央北ふ頭の水面貯木場状況＞



＜既設ドルフィン老朽化状況＞



平成31年度（継続）

農水産物輸出促進基盤の整備

（直轄）

1. 概要

新たな輸出成長分野として見込まれる農水産物の輸出増加に対応するため、農水産物の輸出に戦略的に取り組む港湾において、屋根付き岸壁や小口貨物積替円滑化支援施設*等の整備を行い、輸出促進を図ります。

※港湾機能高度化施設整備費補助

2. 計画内容

苫小牧港

平成31年度整備施設：物揚場(水深3m)(改良)

事業予定期間：平成28年度 ～ 平成31年度（平成31年度完成予定）

紋別港

平成31年度整備施設：物揚場(水深4m)(西)(改良)

事業予定期間：平成20年度 ～ 平成30年代前半（平成31年度暫定供用予定）

根室港

平成31年度整備施設：岸壁(水深5.5m)(改良)、岸壁(水深6m)(改良)

事業予定期間：平成25年度 ～ 平成30年代前半

枝幸港

平成31年度整備施設：物揚場(水深3.5m)(中央)(改良)

事業予定期間：平成29年度 ～ 平成30年代前半

増毛港

平成31年度整備施設：物揚場(水深3.5m)(船溜)(改良)

事業予定期間：平成27年度 ～ 平成30年代前半



平成37年（2025年）に道産食品輸出額1500億円を目指す

平成31年度（継続）

既存ストックを活用したクルーズ船の受入環境の整備 （予防保全事業）

（直轄）

1. 概 要

急増するクルーズ需要やクルーズ船の大型化に対応するため、既存岸壁を活用して大型クルーズ船を受け入れるため、函館港及び小樽港において岸壁整備を推進します。

2. 計画内容

函館港

平成31年度整備施設：岸壁(水深10m)(改良)

事業予定期間：平成28年度 ～ 平成30年代前半

小樽港

平成31年度整備施設：岸壁(水深10m)(改良)、泊地(水深10m)

事業予定期間：平成26年度 ～ 平成30年代前半



小樽港大型クルーズ船岸壁整備状況
（平成30年7月）



函館港大型クルーズ船岸壁整備状況（平成30年10月）
（水深8m 暫定供用：4万トン級対応）



小樽港完成イメージ図



函館港完成イメージ
（水深10m：11万トン級対応）

4. 空港整備事業

1 「観光先進国」実現をリードする世界水準の観光地の形成

外国人旅行者の受入環境整備

近年、東アジアを中心とする国際線航空便と旅客数の急激な増加により、新千歳空港は国際線駐機場の飽和や誘導路の混雑等が発生しています。

混雑の解消と今後もさらなる増加が見込まれる国際線需要に対応するため、国際線ターミナル地域を拡張し、訪日外国人旅行者の受入環境の整備を行います。

〔新千歳空港〕



国際線エプロン混雑状況

2 強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成

（1）空港施設の老朽化対策

航空機の安全かつ安定した運航を確保するため、滑走路や誘導路の計画的な老朽化対策を行います。

〔新千歳空港、釧路空港、稚内空港〕



誘導路舗装の劣化状況

（2）滑走路端安全区域（RESA）の整備

航空機が滑走路を飛び出したとき（オーバーラン）、または滑走路の手前に着陸してしまったとき（アンダーシュート）、乗客と航空機に甚大な被害が発生します。

これらの事態が発生した際、人命の安全を図り、航空機の損傷を軽減させるため、滑走路端安全区域（RESA）の拡張を行います。

〔新千歳空港、函館空港、稚内空港〕



RESA 整備状況

（3）空港施設の耐震対策

大規模地震発生時の緊急物資等輸送拠点機能の確保、航空ネットワークを維持するため空港施設の耐震対策を推進します。

〔新千歳空港〕



函館耐震対策施工状況

平成31年度（継続）

新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業

（直轄）

1. 概 要

近年、東アジアを中心とする国際線航空便と旅客数の急激な増加により、新千歳空港は国際線駐機場の飽和や誘導路の混雑等が発生しています。

混雑の緩和と今後もさらなる増加が見込まれる国際線需要に対応するため、国際線ターミナル地域を拡張し訪日外国人旅行者の受入環境の整備を行います。

2. 計画内容

箇 所 名：新千歳空港

整 備 内 容：新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業

事業予定期間：平成28年度～平成31年度



整備イメージ図

- ① 国際線エプロンの拡張
（空港ターミナルビル拡張と連携し、駐機スポットを増設）
- ② 誘導路新設
（国内線誘導路の混雑緩和、国際線地上走行距離の短縮※最大1.5km短縮）
- ③ 地上支援車両(GSE)置場の新設
（地上支援車両増大への対応）
- ④ 構内道路改良
（南側誘導路建設に伴う構内道路の立体交差、構内道路の4車線化 など）

空港施設の老朽化対策

（直轄）

1. 概 要

滑走路や誘導路の舗装は、航空機の離着陸による熱や衝撃に加え冬期の凍結・融解によるダメージの蓄積により、劣化が進行しやすい環境下にあります。

舗装の老朽化が進行し破損が発生した場合、空港が閉鎖するばかりではなく航空機の重大な事故に繋がる恐れがあるので、航空機の安全かつ安定した運航を確保するため、滑走路や誘導路の計画的な老朽化対策を行います。

2. 計画内容

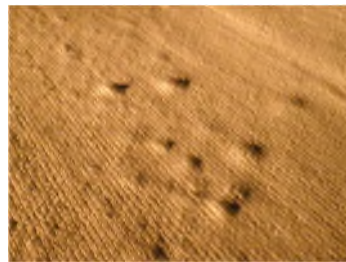
箇 所 名：新千歳空港、釧路空港、稚内空港

整 備 内 容：空港施設の老朽化対策事業

事業予定期間：－



舗装の損傷（クラック）



舗装の損傷（舗装の浮き上がり）
※写真は光源位置の工夫により見えやすくしたもので、凸部が損傷箇所



舗装の損傷（層間剥離）
※滑走路のアスファルトをコア抜きしたもの

舗装の損傷は表面で確認出来るひび割れ（クラック）のほか、表面からは判断が難しい層間剥離等多岐にわたり発生します。また、滑走路や誘導路の舗装は広大な面積であることから、損傷の状態等を調査し適切な時期の実施となるよう、計画的に対策工事行っています。



舗装の撤去状況（夜間工事）



舗装の打ち換え状況（夜間工事）

平成31年度（継続）

滑走路端安全区域用地造成事業

（直轄）

1. 概 要

航空機が滑走路を飛び出したとき（オーバーラン）、または滑走路の手前に着陸してしまったとき（アンダーシュート）、乗客と航空機に甚大な被害が発生します。

これらの事態が発生した際、人命の安全を図り、航空機の損傷を軽減させるため、基準に則り滑走路端安全区域（RESA）の拡張を行います。

2. 計画内容

箇 所 名：新千歳空港、函館空港、稚内空港

整 備 内 容：滑走路端安全区域用地造成事業

事業予定期間：平成27年度～

●函館空港の整備箇所

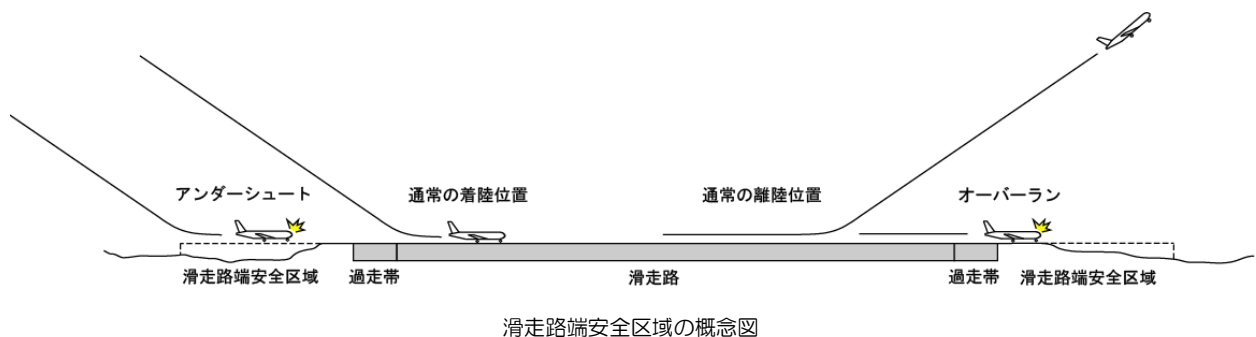


整備箇所

●稚内空港の整備箇所



整備箇所



5. 農業農村整備事業

1 食料供給基地としての持続的发展

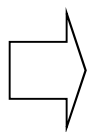
(1) 農林水産業・食関連産業の振興

農地の大区画化・汎用化、排水改良等の農地整備と合わせて、ICTや地下水位制御システム等の新たな技術の導入、作業受託組織の活用等を図ることにより、省力化や低コスト化、農業収益力の向上を推進し、地域農業の振興を図ります。

(国営(緊急)農地再編整備事業)



整備前 (0.3~0.5ha)



整備後 (最大6.8ha)



GPSガイドシステムを活用した代かき



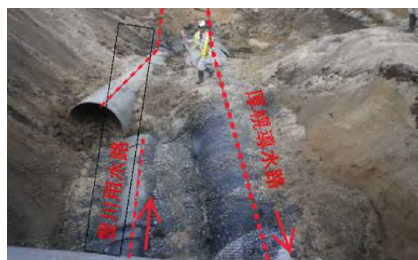
大規模に整備されたほ場でのキャベツ収穫作業

2 強靱な国土づくりと安全・安心な社会基盤の形成

(1) 直轄災害復旧事業及び防災・減災、国土強靱化のための緊急対策

① 災害からの復旧・復興への取組

北海道胆振東部地震により、農業の振興に不可欠な基幹的農業水利施設が被災したため、平成30年11月に着手した直轄災害復旧事業により、復旧を進めます。



被災した用水路 (パイプライン)



暫定的な用水路の敷設工事

②国営造成土地改良施設における防災情報ネットワークの整備

緊急に対策が必要な農業水利施設等について、非常時にも機能を確保するために必要な、行動計画の策定・非常用電源設備等の更新・管理設備等の更新などを行います。

（２）農業水利施設の保全・更新と地域の防災・減災力の向上

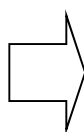
農業水利施設の計画的な保全・更新等により、施設の長寿命化・耐震化や排水機能の強化を推進し、農業の生産力の維持・確保と地域の防災・減災力の向上を図ります。

（国営かんがい排水事業、国営総合農地防災事業）

雨竜川下流地区の例



防災対策が必要な頭首工



対策後のイメージ

恵庭北島地区の例



機能を強化した排水施設

北海地区の例



更新整備した用水路

平成31年度（新規）

国営緊急農地再編整備事業 きょくとう 旭東地区

（直轄）

1. 概 要

区画整理を行い、耕作放棄地を含めた農地の土地利用を計画的に再編し、さらに、担い手への農地の利用集積を進めることにより、緊急的に生産性、収益性の向上と耕作放棄地の解消・発生を防止し、農業の振興と地域の活性化を図ります。

2. 計画内容

関係市町村：旭川市、上川郡 東神楽町

受益面積：1,963ha

主要工事：区画整理（田）1,913ha、区画整理（畑）50ha



【地区の課題】

○ほ場は、小区画で排水不良、かつ石礫過多なほ場も多いことから作業効率が低い条件にあり、限られた労働力の中、これらほ場の継承は困難なため耕作放棄地の増加が懸念。

○今後も経営規模拡大が想定されるが、現状のままでは労働力を多く要する野菜類の生産維持も困難。



【事業実施により期待される効果】

○点在する畑の集約等により21カ所の「野菜生産団地」を形成。複数の担い手農家による協業体制を構築し、施設野菜の生産拡大。

○ほ場の大区画化・暗渠排水等の整備と併せて、農作業請負組織の機能増強。ほ場作業の効率化により余剰労働力を創出し野菜の生産拡大。

○収穫後の選果・パッケージ化を請け負う共同選果の機能増強。これらを通じた野菜の生産拡大により、農業生産額の増大と地域の活性化。



- ◆複数農家による協業化で施設野菜を効率的に生産する野菜生産団地形成 ⇒ 21団地
- ◆大区画化と農作業請負組織の機能増強を通じたほ場作業の効率化
⇒労働時間 水稲:4割減・スイートコーン:8割減
- ◆「施設野菜」「露地野菜」の生産拡大
⇒地区:58ha→210ha(スイートコーン:27ha→115ha、小ねぎ:6ha→18ha)
- ◆野菜生産拡大による農業生産額増大
⇒約7億円増(地区現況→計画)

平成31年度（新規）

国営かんがい排水事業 ^{なかしりべし} 中後志地区（全体実施設計）

（直轄）

1. 概 要

水需要の変化に対応した用水再編を行うとともに、用水施設の整備を行うことにより、農業用水の安定供給と水管理の合理化を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定を促進します。

2. 計画内容

関係市町村：虻田郡京極町、虻田郡倶知安町、岩内郡共和町

受益面積：2,893ha

主要工事：ダム（改修）1箇所、頭首工（改修）1箇所、
用水路（改修）17.2km



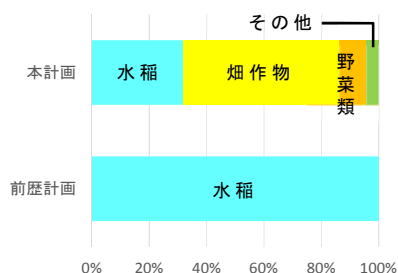
【地区の課題】

○地域の水需要に対応し、高収益作物等の生産拡大を図るため、畑地へのかんがい用水の確保が必要。

○農業経営の中心となる、ばれいしょ、にんじん、メロン等の栽培体系に合わせた用水期間が不足。

○用水施設の経年劣化による機能低下と維持管理費の増加。

【本地区の作付作物】



測壁傾倒への応急措置（切梁）
（倶知安幹線用水路）



用水整備により農業生産性向上
（整備イメージ）

【事業実施により期待される効果】

○畑地へのかんがい用水の確保、用水期間の延長により、にんじんやメロン等の高収益作物の生産性向上により産地収益量の向上に寄与。

○「らいでん」「ようてい」ブランドの強化により地域農業の振興・発展に寄与。



メロン、にんじんをはじめとした高収益作物の
安定生産に寄与

平成31年度（新規）

国営施設応急対策事業 ^{ちゃ みず}お茶の水地区

（直轄）

1. 概 要

排水路及び排水機場等の施設の機能保全に資する整備を実施し、排水機能の維持及び維持管理の費用と労力の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定化を促進します。

2. 計画内容

関係市町村：岩見沢市、江別市

受益面積：2,854ha

主要工事：排水路（改修）5.7km、
排水機場（改修(耐震対策含む)）1箇所



【地区の課題】

- 幹線排水路において、鋼矢板護岸が傾倒・倒壊する不測の事態が発生し、排水機能に支障を来しているとともに、施設の維持管理に多大な費用と労力を要している。
- 排水機場の劣化による性能低下が生じており、今後、更なる性能低下が進行した場合、排水機能に支障を来すとともに施設の維持管理に多大な費用と労力を要することとなる。
- 排水機場が大規模地震により損壊した場合、地域に甚大な被害を及ぼす恐れがある。



排水路の倒壊事故



整備イメージ（排水路）



お茶の水排水機場



排水機場の近傍に市街地が存在

【事業実施により期待される効果】

- 基幹的な農業水利施設を改修し、排水機能の維持による農業生産性の維持。
- 6次産業化を契機とした地域活性化及び地域農産物のブランド化の促進。



地元産小麦「ゆめちから」を使用した「生パスタ」



学校給食にも使われている「お茶の水手造り生みそ」

平成31年度（完了）

国営農地再編整備事業 もせうし 妹背牛地区

（直轄）

1. 概要

区画整理を行い、農地を大区画化することと併せて、担い手への集積を行い、生産性の高い農業を実現し、優良農地の確保を図ります。

2. 計画内容

関係市町村：妹背牛町

受益面積：1,002ha

主要工事：区画整理（田）926ha、区画整理（畑）71ha、
農地造成（畑）5ha

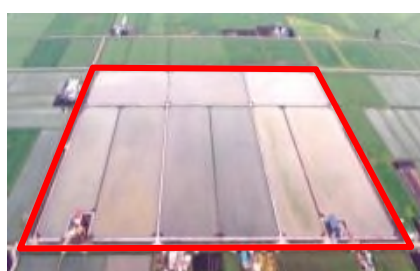


【地区の課題】

○農地が小区画であることに加え、排水不良もあり、大型機械を導入した生産性の高い農業を行うことが難しい状況。このため、後継者不足により耕作放棄地が発生する懸念が生じている。



小区画（0.4～0.6ha）ほ場



大区画（2.2ha）ほ場



大区画ほ場における営農状況

【事業実施により期待される効果】

○大区画化等の農地整備を実施し、担い手に農地を集積・集約化。

○地下水位制御システムを整備するとともに、GPS ガイダンスシステムを用いた作業時間の削減。

○高収益作物の導入や加工・販売などを推進。



GPS ガイダンスシステムを活用した
水稻の直播作業状況



高収益作物（花き）の導入

平成31年度（継続）

あつけし

厚岸地区 特定漁港漁場整備事業

（直轄）

1. 概要

厚岸漁港は、北海道東部の太平洋沿岸に位置し、道内外のサンマ棒受網、サケ・マス流し網、イカ釣りなどの沖合漁業及びコンブ、カキ・アサリ等の沿岸・養殖漁業の流通拠点として重要な役割を担っています。

当漁港では、野天での陸揚げ・荷さばき作業を余儀なくされているとともに、背後用地が狭隘であることから、危険かつ非効率な作業を強いられています。

このことから、水産物の衛生管理対策の強化、漁港内の混雑解消を図るため、屋根付き岸壁や人工地盤を中心とした湖南地区の整備を推進します。



2. 計画内容

計画箇所：厚岸地区（厚岸町）

主要計画施設：－5.5m岸壁(改良)(湖南)429m、－4.5m岸壁(改良)(湖南)156m、
用地(人工地盤)(湖南)1,900㎡

全体事業費：178億円

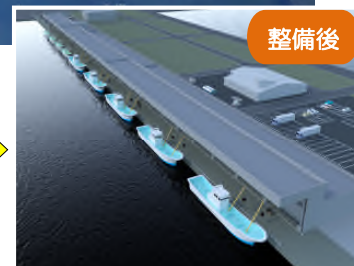
事業予定期間：平成25年度～平成34年度



野天でのサンマ陸揚げ状況



狭隘な陸揚げ岸壁の背後用地



屋根付き岸壁整備イメージ

7. 官庁営繕事業

1 防災拠点となる官庁施設の防災機能の強化等

(1) 地域と連携した防災拠点となる

官庁施設の整備の推進

地方公共団体をはじめとする様々な関係者との連携の下、大規模災害の発生に備え、防災拠点となる官庁施設の整備を推進します。これにより、災害に強い地域づくりを支援するとともに、新たなまちづくり空間やにぎわいの創出等地域の活性化に積極的に貢献します。

(2) 官庁施設の耐震化の推進

災害応急対策活動の拠点として所要の耐震性能を満たしていない施設について、人命の安全確保と防災機能の強化を図るため、官庁施設の耐震化を推進します。

(3) 官庁施設の津波対策の推進

防災拠点としての機能維持と行政機能の早期回復を図るため、官庁施設における津波対策を総合的かつ効果的に推進します。

(4) 災害応急対策活動に必要となる官庁施設の電力の確保等

大規模災害が生じた際における災害応急対策活動への支障のおそれを解消するため、自家発電設備の改修を実施します。

2 官庁施設の老朽化対策

(1) 官庁施設の長寿命化

既存官庁施設をより長く安全に利用し、トータルコストの縮減等を実現するため、ハード対策、ソフト対策の両面から、官庁施設の長寿命化を図ります。

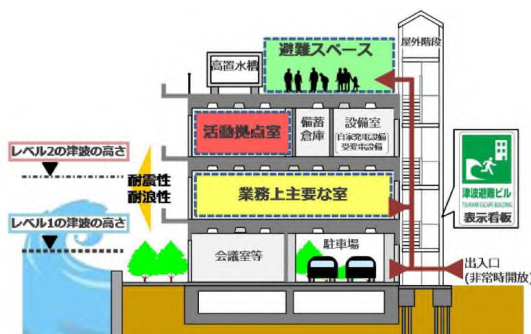
(2) 既存官庁施設の危険箇所、経年劣化が著しい部位等の解消

既存官庁施設において、来訪者等の安全の確保と行政サービスの円滑な提供に最低限必要な施設の性能を確保するため、危険な箇所、経年劣化が著しい部位等について、緊急的な改修を実施します。



※平成31年度設計着手

老朽化が進む海上保安署の施設不備を解消するとともに、高台移転により津波浸水対策を実施



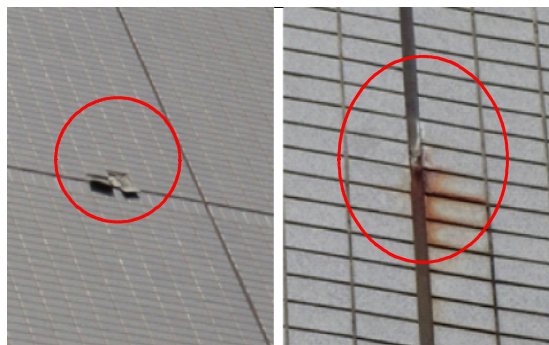
※イメージ図

官庁施設における津波対策



※イメージ図

電力確保のための改修



※外壁劣化イメージ

危険箇所、劣化が著しい部位等の改修を実施

(参考) アイヌ文化の振興

「アイヌ文化の復興等を促進するための民族共生象徴空間の整備及び管理運営に関する基本方針について」（平成26年6月13日閣議決定、平成29年6月27日一部変更）等に基づき、国立民族共生公園及び慰霊施設の整備を推進します。

アイヌ文化復興等のナショナルセンターとなる「民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）」は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に先立ち、2020年4月に一般公開することから、年間100万人の来場者実現に向けて、整備を促進します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

<ロゴマーク・コンセプト>

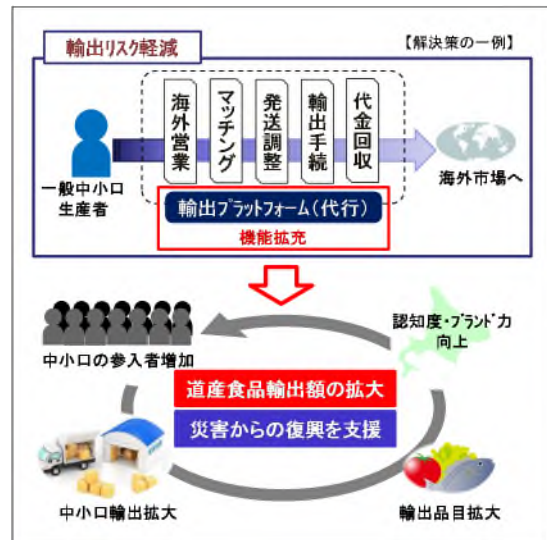
- ・ポロト湖周辺の自然景観（山並みや湖）をイメージ。また、アイヌのものづくりの極みのひとつである、男性が正装時に身につける儀礼用の太刀を下げるための帯（エムシアツ）の文様をイメージ。
- ・メインカラーとして、伝統的なアイヌの服飾に用いられることも多い、紺と赤を採用。
- ・下の縦線の本数は、アイヌ語で「たくさん」を表わす表現にも用いられる数「6」とし、多くの人々が集うことをイメージ。

(参考) 北海道開発計画調査

北海道総合開発計画の企画、立案及び推進に必要な調査について、平成31年度は、農林水産業・食関連産業の振興、生産空間の維持・発展及び北方領土隣接地域の観光振興分野における課題の解決方策の検討を重点的に実施します。

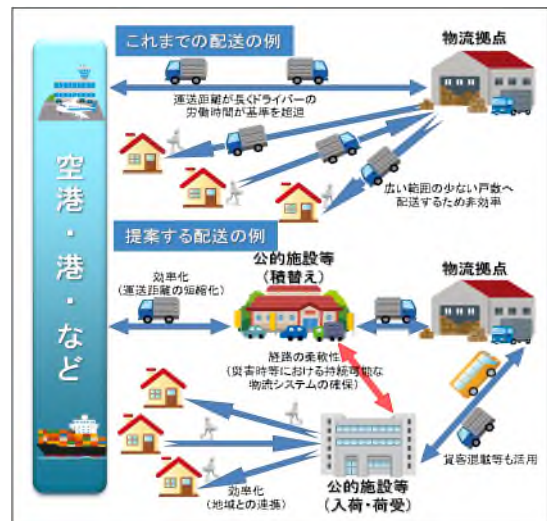
1 「食」のワンストップ輸出実現

北海道産食品に係る輸出品目の裾野拡大等を促進するため、中小口貨物の輸出に関わる生産者、物流事業者、商社等が輸出リスク等に関する情報を共有し得るプラットフォームの構築・強化を図ります。



2 生産空間を支える物流インフラの維持のための公的施設の利用可能性

食料品の生産等で我が国の重要な役割を担う「生産空間」に住み続けられる生活環境整備のため、物流インフラの維持に寄与する公的施設の利用可能性について調査を行います。



3 北方領土隣接地域への外国人旅行者の誘客

北方領土隣接地域の観光振興を図るため、外国人旅行者のドライブ観光の促進に資する観光、交通安全、災害時対応等に係る情報を効果的に発信します。



【参考】平成31年度 道路の主な開通予定

【直 轄】

路 線 名	箇 所 名	開 通 予 定	
		区 間	延 長 (km)
E62 深川・留萌自動車道	幌糠留萌道路	留萌大和田IC ～ (仮称)留萌IC	4.1
E39 旭川・紋別自動車道	丸瀬布遠軽道路	遠軽瀬戸瀬IC ～ 遠軽IC	6.8
E44 国道44号	根室道路	(仮称)温根沼IC ～ (仮称)根室IC	7.1
道央圏連絡道路	泉郷道路	千歳市中央 ～ 夕張郡長沼町幌内	8.2

《防災・安全交付金》

事業主体	事業実施箇所	事業名	事業 延長 (km)	左記事業が含まれる社会資本総合整備計画
				計画名
ほっかいどう 北海道	なかがわちよう 中川町	(主) びふか なかがけせん (主)美深中川線	0.5	道路施設の適切な維持管理推進等による安全・安心な道路ネットワーク形成
ほっかいどう 北海道	びばいし 美唄市	(一) つきがたみねのぶせん (一)月形峰延線	0.1	防災・安全を支える道路ネットワーク強化
さっぽろし 札幌市	さっぽろし 札幌市	きた じよう ていね とおり 北5条・手稲通	1.1	人に優しいまちを実現する道路空間の安全・安心(第2期)

《社会資本整備総合交付金》

事業主体	事業実施箇所	事業名	事業 延長 (km)	左記事業が含まれる社会資本総合整備計画
				計画名
ほっかいどう 北海道	にしおこつべむら 西興部村	(主) えんがる おうむ せん (主)遠軽雄武線	1.0	道内各地域の活力向上、国際競争力強化に資する道路ネットワークの機能向上・交通環境形成
ほっかいどう 北海道	しらおいちよう 白老町	えきまえどおりしらおいえきえきまえ ひろば 駅前通(白老駅前広場)	0.3ha	
さっぽろし 札幌市	さっぽろし 札幌市	きよた どおり 清田通	0.5	快適な市民生活と北海道経済の発展を支える道路交通ネットワークの構築(第2期)